

**Activities of the
Research Center for
Urban Safety and Security
Kobe University
(Fiscal Year 2018)**

神戸大学都市安全研究センター 平成三十一年三月

神戸大学

都市安全研究センター

活動報告 第二十二号

RCUSS

**Research Center for Urban Safety and Security
Kobe University**

神戸大学都市安全研究センター活動報告（平成30年度）

Activities of Research Center for Urban Safety and Security Kobe University (Fiscal Year 2018)

第 23 号

目 次

1. 都市安全研究センター設置の趣旨及び沿革	1
1.1 設立の趣旨	1
1.2 沿革	2
2. 活動内容、教員構成及び組織図	3
3. 活動プロジェクト	6
4. 都市安全研究センターの運営	8
4.1 運営委員会	8
4.2 プロジェクト推進・評価	10
5. 協力教員による活動	11
5.1 協力教員構成	11
5.2 公募型プロジェクト	13
6. 主な設備及び備品	14
7. 野外調査・観測地及び緊急調査の実施	15
7.1 野外調査・観測地	15
7.2 緊急調査の実施	15
8. 都市安全研究センター発行物	16
9. 会議開催等	17
9.1 主催	17
9.2 共催	25
9.3 中高生への説明会	25
9.4 その他	26
10. 非公開	27
	27
	29
	31
11. 国際・国内交流活動	32
12. 非公開	33
	33
	35
13. 研究費	36
13.1 科学研究費	36

非公開	-----	38
	-----	39
	-----	40
	-----	40
14. 教育活動	-----	41
14.1 講義科目	-----	41
非公開	-----	43
	-----	43
15. 研究業績	-----	44
15.1 研究現状の紹介（研究テーマ）	-----	44
15.2 著 書	-----	45
15.3 学術論文	-----	45
15.4 学術報告	-----	50
15.5 学術講演	-----	52
16. 研究指導	-----	60
16.1 博士論文	-----	60
16.2 修士論文	-----	60
16.3 卒業研究	-----	62
付 録		
センター活動の報道記録		

1. 都市安全研究センター設置の趣旨及び沿革

1.1 設立の趣旨

都市安全研究センターは、「安全かつ快適な都市の理念を構築し、及びそれを実現するための手法、システムについて総合的に教育研究を行い、もって活力ある都市の創出に寄与する」ことを目的に、平成8年5月11日に設置された。

都市は、活力ある生産・経済・文化活動の場として多様で豊富な機能を備え、また潤いある生活の場として快適で良好な環境であることが求められるが、何にもまして安全で安心な場であることが求められている。しかし都市は、つねに集中化や過密化を伴う巨大で複雑なシステムであり、同時に地震や洪水等の自然災害あるいは人間活動による環境破壊や汚染によって壊滅的な打撃を受けかねない繊細なシステムでもある。

平成7年1月17日の兵庫県南部地震によって、我々は、余りにも多くの尊い犠牲を払って、都市の脆弱性をあらためて認識し、都市の安全確保のために総合的な研究の展開と遂行が必要であることを痛感させられた。神戸大学は、被災地の総合大学として、貴重な体験を基礎に、真に安全・安心な都市の創出をめざして、都市ゆえに生じる多種多様な災害についてハード及びソフトの両面から学際的かつ総合的に研究するため、その中核として研究センターの設置を文部省に申請し、これが認められて当研究センターが設立された。なお、創設にあたって、工学部附属土地造成工学研究施設は発展的に拡充改組する形で廃止され、その研究成果と研究活動は当センターに継承されることとなった。

設立10周年を迎えた平成18年4月には、全面的な改組（3大研究分野体制：リスク・アセスメント、リスク・マネジメント、リスク・コミュニケーション）を行い、「防災」と「減災」の両面に立脚した、より積極的に住民の命を守ることを目的とした安心・安全な社会の構築を目指す仕組みや手法の研究を推進していくこととなった。

1.2 沿革

平成8年5月11日	神戸大学都市安全研究センター 新設 都市構成研究分野（教授1名，助教授1名） 都市基盤研究分野（教授2名，助教授2名，助手1名） 都市地震研究分野（教授1名，助教授1名） 都市安全医学研究分野（教授1名，助教授1名） 都市行政産業基盤研究分野（客員教授2名） 工学部長 片岡 邦夫 教授 センター長に就任
平成9年4月1日	都市情報システム研究分野（教授1名，助教授1名，助手1名）増設
平成10年4月1日	工学部長 北村新三 教授 第2代センター長に就任
平成10年4月9日	都市安全マネジメント研究分野（教授1名，助教授1名）増設
平成12年4月1日	工学部長 森脇俊道 教授 第3代センター長に就任
平成16年4月1日	工学部長 薄井洋基 教授 第4代センター長に就任
平成18年4月1日	3大研究分野へ改組（教員16名，客員2名） リスク・アセスメント大研究分野 リスク・マネジメント大研究分野 DMAT・災害支援特別部門（助教授1名 3年時限） リスク・コミュニケーション大研究分野
平成19年2月16日	工学部長 森本政之 教授 第5代センター長に就任
平成19年4月1日	沖村孝 教授 第6代センター長に就任
平成20年4月1日	有木康雄 教授 第7代センター長に就任
平成22年4月1日	田中泰雄 教授 第8代センター長に就任
平成24年4月1日	飯塚 敦 教授 第9代センター長に就任
平成26年4月1日	北後明彦 教授 第10代センター長に就任
平成28年4月1日	大石 哲 教授 第11代センター長に就任
平成30年4月1日	長尾 毅 教授 第12代センター長に就任

2. 活動内容，教員構成及び組織図

リスク・アセスメント研究分野

地震，津波，豪雨などの自然災害及び環境破壊，事故，火災などの人為災害に対する都市機能，生活環境の靱性能の定量的評価と防災・減災を目的にした施策を学際的に研究する．地震メカニズムの解明，都市環境に対する災害リスクの同定と定量化，防災・減災を主眼とした安全環境整備への方策を追究し，安全・安心で環境負荷の少ない都市の創生・再生へ向けてのシナリオ・マップの策定を目指す．

地震災害リスク評価研究分野

教 授 吉岡祥一
准教授 廣瀬 仁

地盤環境リスク評価研究分野

教 授 飯塚 敦
講 師 橘 伸也

リスク・マネジメント研究分野

都市災害が発生した時，社会が災害から受ける影響を最小とするための方策について研究する．具体的には，都市施設，医療・生活，行政・経済面の災害発生時における緊急対応の方法，被災社会の復旧・復興過程における短気・中長期の視野に基づく各項目で取りうる最善な方策及び災害発生時の影響を最小にするために，都市施設，医療・生活，行政・経済の各システムについて事前に整備しておくべき方策などについて研究する．

社会基盤マネジメント研究分野

教 授 長尾 毅

減災エリアマネジメント研究分野

教 授 北後明彦
准教授 藤永 隆

産業・経済危機管理マネジメント研究分野

外国人研究員

FRANCISCO ORTEGA （平成30年4月～平成30年5月）
客員教授 Zhu Shoubiao （平成30年7月）
客員教授 BHATTARAI TARA NIDHI （平成30年11月～平成31年3月）

客員研究員

客員教授 金治英貞 （平成29年度前期～）
 山野井一輝 （平成30年2月～）
客員教授 池内幸司 （平成30年4月～平成30年9月）
客員教授 山田雅行 （平成30年10月～平成31年3月）
 吉田龍二 （平成30年10月～）

リスク・コミュニケーション研究分野

都市域における防災・減災を達成するため，リスク・コミュニケーションによる人々のリスク認識の向上や意志決定のサポートなどの手法について研究する．具体的には，住民や各機関との双方向の情報通信手段や防災教育に関する研究ならびに先端技術を応用した災害情報共有のための災害情報モニタリング，災害情報収集システムに関する研究を行う．

情報コミュニケーション研究分野

教 授 滝口哲也

安全コミュニケーション研究分野

教 授 大石 哲

特命教授 梶川義幸

准教授 小林健一郎

特命助教 吉田龍二・山浦 剛

特命助教 小川まり子

感染症リスクマネジメント研究分野

教 授 岩田健太郎

准教授 大路 剛

協力研究部門

災害緊急医療学研究分野

教 授 小谷穰治

准教授 山田 勇

災害健康保健学研究分野

教 授 和泉比佐子

准教授 小寺さやか

減災人間学研究分野

教 授 松岡広路

減災社会システム研究分野

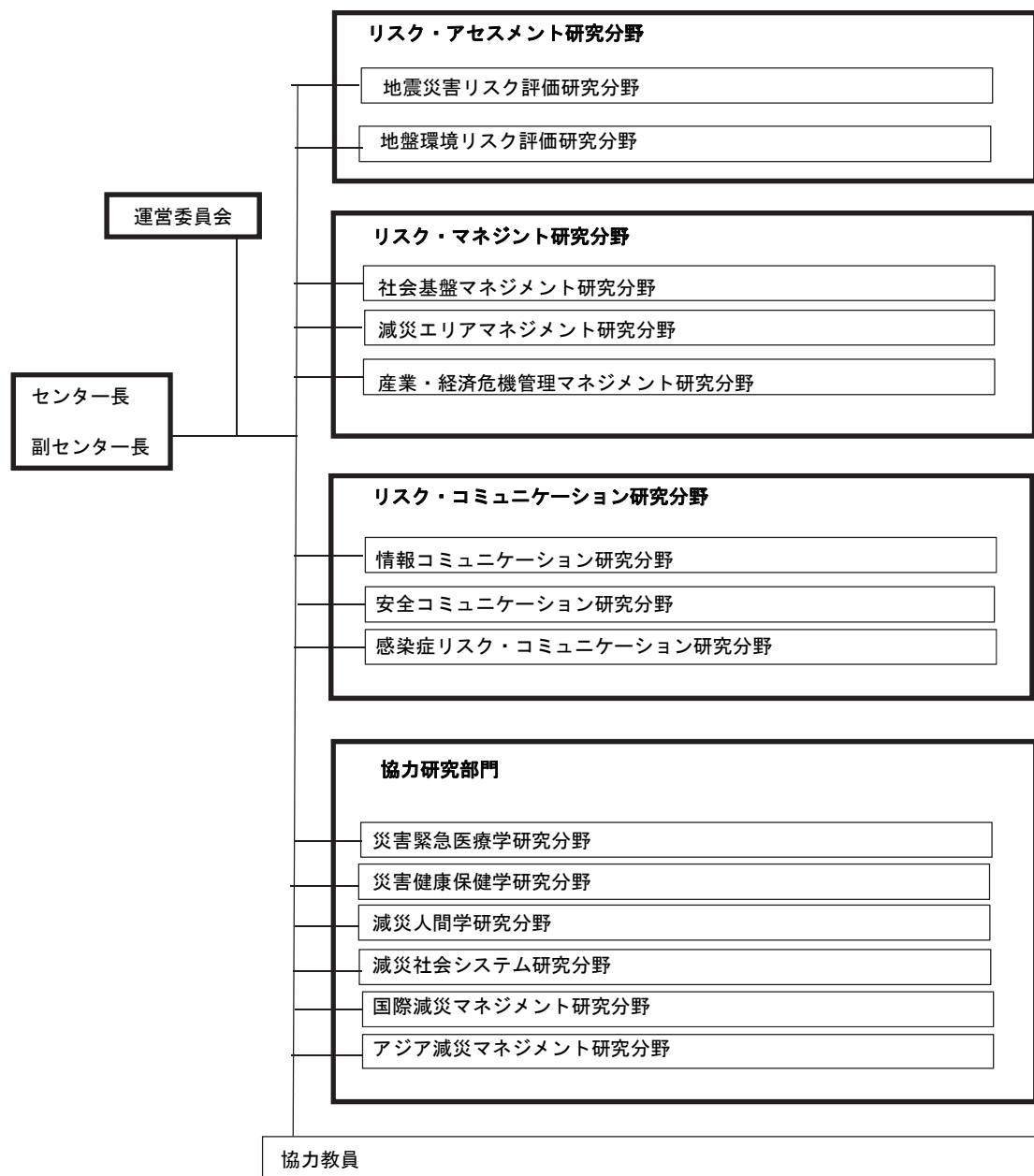
教 授 金子由芳

国際減災マネジメント研究分野

客員教授 田和正裕

アジア減災マネジメント研究分野

客員教授 鈴木弘二



都市安全研究センター組織図
(平成 31年 3月 31日 現在)

3. 活動プロジェクト

リスク・アセスメント研究分野

地震発生の場合と波動伝搬の解明に向けた研究

東海・東南海・南海地震の固着域の推定
3次元熱対流プレート沈み込みモデルの構築
動的断層破壊モデルの構築
津波の数値シミュレーション研究
SSEと群発地震の連動メカニズムの解明
東北日本弧を対象とした観測された強震動データの特徴と震源特性・島弧の構造との関連性の研究

持続可能な減災社会インフラ構築のための地盤安全環境評価手法の確立

液状化などの地盤の動的挙動を表現できる地盤材料構成モデルの高度化
広域地盤モデル作成のための地盤物性の把握と入力パラメータの決定法の開発
深海底サンプリングにおける応力変化が土供試体の力学特性に及ぼす影響の定量的評価手法の開発
プレート境界デコルマ帯における変質に伴う力学特性変化の定量化モデルの開発とアスペリティー形成の可能性の検討
デコルマ帯に見られるモンモリロナイト含有粘性土の力学特性の把握とその構成モデル化
放射性廃棄物地層処分におけるモンモリロナイト含有粘性土（ベントナイト材料）の力学特性および変質に伴う力学特性変化の数値モデルの開発

リスク・マネジメント研究分野

社会基盤施設の耐震設計法の合理化に関する研究
社会基盤施設の設計地震動の合理化に関する研究
サイト増幅特性の評価法の開発
社会基盤施設の耐震性能照査法の合理化に関する研究

減災エリア・マネジメントによる安全安心コミュニティ構築に関する研究
津波浸水地域及び木造密集地域における減災エリアマネジメントに関する研究
人口集中都心における減災エリアマネジメントに関する研究
復興段階の被災地における減災エリアマネジメントに関する研究
アジアを中心とする発展途上国における減災エリアマネジメントに関する研究

リスク・コミュニケーション研究分野

健常者・障がい者に対するユニバーサルな災害情報収集及び提供システムの研究
情報検索/音声質問検索に関する研究
一般物体認識に関する研究

予測の不確実性を含んだ水災害軽減に関する基礎および実践的研究
京コンピュータを利用した洪水モデリング
豪雨災害の探知・予測システムの検討に関する研究
気候システムに関する研究
住民へのリスク・コミュニケーションに関する研究

新型インフルエンザなど新興・再興感染症対策に関する研究
新興・再興感染症・新型インフルエンザに関する研究
耐性菌感染症に関する研究

4. 都市安全研究センターの運営

4.1 運営委員会

4.1.1 運営委員会構成

(平成30年5月1日現在)

センター長	教授	長尾 毅	(都市安全研究センター)
副センター長	教授	岩田健太郎	(都市安全研究センター)
	教授	飯塚 敦	(都市安全研究センター)
	教授	大石 哲	(都市安全研究センター)
	教授	滝口 哲也	(都市安全研究センター)
	教授	北後 明彦	(都市安全研究センター)
	教授	吉岡 祥一	(都市安全研究センター)
	教授	島 伸和	(理学研究科)
	教授	上野 易弘	(医学研究科)
	教授	内山 雄介	(工学研究科)
	教授	上原 邦昭	(システム情報学研究科)
	教授	松岡 広路	(人間発達環境学研究科)
	教授	高田 哲	(保健学研究科)
	教授	金子 由芳	(国際協力研究科)
	客員教授	鈴木 弘二	(都市安全研究センター)
	客員教授	田和 正裕	(都市安全研究センター)

(以上 16名)

4.1.2 運営委員会開催状況

平成30年度第1回運営委員会

- 1) 日時：平成30年7月27日（金）
- 2) 場所：工学研究科中会議室（工学研究科2W棟2階2W-207）
- 3) 議事次第
報告事項
（1）教員等の異動について
（2）都市安全研究センターの活動報告と計画について

審議事項

- （1）平成29年度決算及び平成30年度予算配分について
- （2）客員研究員の採用について
- （3）非常勤講師の採用について
- （4）招へい外国人研究者の受け入れについて

平成30年度第2回運営委員会

- 1) 日時：平成31年1月31日（金）
- 2) 場所：工学研究科中会議室（工学研究科2W棟2階2W-207）
- 3) 議事次第
報告事項
（1）教員等の異動について
（2）都市安全研究センターの活動報告と計画について

審議事項

- （1）副センター長候補者の選考について
- （2）客員研究員の採用について
- （3）外国人研究員の採用及び客員教授等の称号付与について
- （4）講師（研究機関研究員）の雇用について

4.2 プロジェクト推進・評価

4.2.1 プロジェクト推進・評価委員会構成

山平晃嗣氏：神戸市理事・危機管理監
早金 孝氏：兵庫県防災監
松岡 健氏：神戸新聞社編集局文化部部長
塩見彰浩氏：国際復興支援プラットフォーム上席復興専門官
中山伸一氏：兵庫県災害医療センターセンター長
平原和朗氏：京都大学大学名誉教授
理化学研究所革新知能統合研究センター嘱託職員（座長）
池淵周一氏：京都大学名誉教授（公財）河川財団近畿事務所 研究フェロー
太田秀樹氏：東京工業大学名誉教授 中央大学研究機構教授

4.2.2 プロジェクト推進・評価委員会開催状況

- 1) 日時：平成31年3月27日（木） 14：00～17：00
- 2) 場所：神戸大学都市安全研究センター研究棟2階会議室
- 3) 次第
 - （1）開会挨拶（長尾センター長）
 - （2）委員自己紹介
 - （3）座長選出
 - （4）委員会の趣旨説明（長尾センター長）
 - （5）平成30年度研究報告と平成31年度の研究計画
 - （6）未来世紀都市学研究ユニットの説明
 - （7）未来世紀都市学研究ユニットに関する質疑応答
 - （8）閉会挨拶（岩田副センター長）

5. 協力教員による活動

5.1 協力教員構成

(平成30年5月1日現在)

理事 (2名) 水谷 文俊
 内田一徳

人文学研究科 (3名)
教 授 松田 毅 (文化構造専攻)
教 授 奥村 弘 (社会動態専攻)
教 授 市澤 哲 (社会動態専攻)

国際文化学研究科 (7名)
教 授 大月 一弘 (グローバル文化専攻)
教 授 藤野 一夫 (グローバル文化専攻)
教 授 坂本 千代 (文化関連専攻)
教 授 王 柯 (文化関連専攻)
教 授 塚原 東吾 (文化関連専攻)
准教授 井上 弘貴 (文化関連専攻)
准教授 安岡 正晴 (文化関連専攻)

人間発達環境学研究科 (6名)
准教授 齊藤 誠一 (人間発達専攻)
教 授 浅野 慎一 (人間環境学専攻)
教 授 平山 洋介 (人間環境学専攻)
教 授 山崎 健 (人間環境学専攻)
教 授 澤 宗則 (人間環境学専攻)
准教授 太田 和宏 (人間環境学専攻)

附属学校部 (1名)
校 長 藤田 裕嗣 (中等教育学校)

法学研究科 (1名)
教 授 檉村 志郎 (理論法学専攻)

経済学研究科 (2名)
教 授 玉岡 雅之 (経済学専攻)
准教授 堀江 進也

経営学研究科 (1名)
教 授 正司 健一 (経営学専攻)

社会システムイノベーションセンター (1名)
特命教授 豊田 利久

理学研究科 (1名)
助 教 笥 楽磨 (地球惑星科学専攻)

医学研究科 (1名)
教 授 上野 易弘 (医科学専攻)

保健学研究科 (2名)

教 授	林 祥剛	(保健学専攻)
教 授	中澤 港	(保健学専攻)

工学研究科 (33 名)

教 授	黒田 龍二	(建築学専攻)
教 授	阪上 公博	(建築学専攻)
教 授	孫 玉平	(建築学専攻)
教 授	多賀 謙蔵	(建築学専攻)
教 授	田中 剛	(建築学専攻)
教 授	谷 明勲	(建築学専攻)
教 授	藤谷 秀雄	(建築学専攻)
教 授	松下 敬幸	(建築学専攻)
准教授	大谷 恭弘	(建築学専攻)
准教授	栗山 尚子	(建築学専攻)
准教授	近藤 民代	(建築学専攻)
准教授	佐藤 逸人	(建築学専攻)
准教授	竹林 英樹	(建築学専攻)
准教授	中江 研	(建築学専攻)
准教授	向井 洋一	(建築学専攻)
助 教	竹内 崇	(建築学専攻)
教 授	芥川 真一	(市民工学専攻)
教 授	井料 隆雅	(市民工学専攻)
教 授	小池 淳司	(市民工学専攻)
教 授	澁谷 啓	(市民工学専攻)
教 授	中山 恵介	(市民工学専攻)
教 授	藤田 一郎	(市民工学専攻)
教 授	森川 英典	(市民工学専攻)
准教授	加藤 正司	(市民工学専攻)
准教授	鍬田 泰子	(市民工学専攻)
助 教	齋藤 雅彦	(市民工学専攻)
教 授	竹野 裕正	(電気電子工学専攻)
教 授	塚本 昌彦	(電気電子工学専攻)
助 教	米森 秀登	(電気電子工学専攻)
教 授	阪上 隆英	(機械工学専攻)
准教授	細川 茂雄	(機械工学専攻)
教 授	大村 直人	(応用化学専攻)
准教授	今駒 博信	(応用化学専攻)

システム情報学研究科 (3名)

教 授	上原 邦昭	(計算科学専攻)
特命教授	吉本 雅彦	(情報科学専攻)
助 教	高木 由美	(情報科学専攻)

海事科学研究科 (3名)

教 授	嶋田 博行	(海事科学専攻)
准教授	岡田 順子	(海事科学専攻)
教 授	竹林 幹雄	(海事科学専攻)

農学研究科（7名）

教 授	金子 治平	（食料共生システム学専攻）
教 授	河端 俊典	（食料共生システム学専攻）
教 授	田中 勉	（食料共生システム学専攻）
教 授	田中丸治哉	（食料共生システム学専攻）
准教授	井上 一哉	（食料共生システム学専攻）
准教授	多田 明夫	（食料共生システム学専攻）
助 教	澤田 豊	（食料共生システム学専攻）

国際協力研究科（2名）

教 授	ALEXANDER RONNI BARR	（国際協力政策専攻）
教 授	小川 啓一	（地域協力政策専攻）

内海域環境教育研究センター（1名）

教 授	兵頭 政幸
-----	-------

留学生センター（3名）

教 授	朴 鍾祐
准教授	HARRISON RICHARD JOH
准教授	黒田 千晴

男女共同参画推進室（1名）

政策研究職員	中原 朝子
--------	-------

科学技術イノベーション研究科（1名）

教 授	太田 能	（科学技術イノベーション専攻）
-----	------	-----------------

先端融合研究環

助 教	伊藤 麻衣
-----	-------

（以上83名）

5.2 公募型プロジェクト

5.2.1 申請状況

応募総数	8 件
------	-----

5.2.2 採択課題

近藤 民代

平成 28 年度熊本地震における住宅再建と災害リスク認知および地域特性の関係

中山 恵介

洪水氾濫解析において底面粗度に誘起する渦が氾濫領域に与える影響と対策手法の提案

伊藤 麻衣

免震建物の擁壁衝突による衝撃抑制法の検討

豊田 利久

阪神・淡路大震災における産業・経済面の被害と復興

6. 主な設備及び備品

リスク・アセスメント研究部門

- ・ 反射法地震波探査装置 (DAS-1) (Oyo Geospace Data Logger)
- ・ 地震観測装置 3式
- ・ 模型土槽
- ・ 三軸試験装置 (静的、繰返し試験用) 2 式
- ・ 高圧圧密試験機 (二連型) (MARUI)
- ・ 万能圧縮試験機 (MARUI)
- ・ スマート三軸試験機 1 台 (応用地質株)

リスク・マネジメント研究部門

- ・ 赤外線サーモグラフィ TVS-700 1台
- ・ 微動センサー 2台
- ・ 強震・微動計 6式
- ・ 三軸試験装置 2 式
- ・ 繰返しねじりせん断試験機 (アスファルト供試体用)
- ・ 小型FWD (FWD-Light) 試験機 (共同利用可能)
- ・ アルミ棒積層体模型載荷試験装置 (共同利用可能)
- ・ 大型盛土実験スペース {4m (長) x 2m (幅) x 3m (高)} (共同利用可能)

リスク・コミュニケーション研究部門

- ・ 電子セオドライト (SOKKIADT4F)
- ・ ノンプリズム光波距離計 (MM100)
- ・ GNSS 大気遅延量計測装置 (Trimble NetR9) 2 台

各部門共通

- ・ トヨタハイエース (CBF-TRH200V) 1台

7. 野外調査・観測地及び緊急調査の実施

7.1 野外調査・観測地

リスク・アセスメント研究部門

- ・ 豊後水道周辺GPS観測
- ・ SKB エスボ岩盤研究所調査
- ・ 大源太ダム調査
- ・ 六ヶ所村放射性廃棄物地下空洞型処分施設閉鎖技術確証実験現場調査

リスク・マネジメント研究部門

- ・ 東日本大震災後の復興調査
- ・ 北海道胆振東部地震被害調査および常時微動観測
- ・ 2016年熊本地震後の復興調査
- ・ 2018年西日本豪雨の避難及び復興調査

リスク・コミュニケーション研究部門

- ・ 大阪湾周辺：X バンドおよびミリ波レーダー，GPS 水蒸気探知，雷探知観測

7.2 緊急調査の実施

- ・ 北後明彦
西日本豪雨で発生したアルミ工場爆発による周辺被害調査，平成 30 年 7 月～8 月

8. 都市安全研究センター発行物

- ・第13回プロジェクト推進・評価諮問委員会報告書(平成30年7月)
- ・平成30年度都市安全研究センター研究プロジェクト報告会「安全・安心な社会を目指して」報告書（神戸防災のつどい2019）（平成31年3月）
- ・平成30年度神戸大学都市安全研究センター オープンセンター実施報告書(平成31年3月)
- ・都市安全研究センター研究報告第23号(平成31年3月)
- ・都市安全研究センター活動報告第23号(平成31年3月)

9. 会議開催等

9.1 主催

オープンセンター（第18回）

神戸大学都市安全研究センター発 “みんなで考えよう 安全・安心で快適なまちづくり”

（神戸市役所共催）

平成30年12月2日（日）

場所：神戸ハーバーランド スペースシアター

概要： 12月2日（日）11:00～16:00 に神戸市役所との共催で神戸ハーバーランドスペースシアターにて開催した。子供からお年寄りまで一般の市民の方が，“見て、聞いて、触れる”ことによって、大学の研究活動、防災について関心を持っていただく。ステージでは、神戸市都市計画総局による児童の「防災啓発ポスター」の表彰式、神戸市消防局ボランティアグループ「チーム TEC 安2」によるミニ講習会“救急車が来るまでに”，神戸市住宅都市局の中島氏によるミニ講演会“地震に自信ありますか？”，センター教員の吉岡教授による“今後西日本で起こりうる地震について”と題するミニ教室を行った。並行して、フロアでは11ブースに分かれて都市安全研究センターで行われている研究・調査活動、神戸市役所が取り組んでいる安全安心に係わる活動を紹介するパネルの展示、試験の実演や体験できるコーナーを設けた。

来訪者：約324名（小林）

神戸防災のつどい 2019 震災教訓の継承と自己決定力向上～自然災害から学ぶ、備える～

安全・安心な社会を目指して 一迫る自然災害の危険性とその対策－

神戸大学都市安全研究センターの活動

日時： 平成31年 1月17日（木）10:00 ～ 12:30

会場： 神戸国際会館 セミナーハウス 901・902室

プログラム

- | | |
|-------|---|
| 10:00 | 都市安全研究センターの組織と発展
長尾 毅／都市安全研究センター・センター長 |
| 10:10 | 都市安全研究センターの先端研究紹介1
「西日本豪雨と昭和42年豪雨について」
大石 哲／都市安全研究センター・教授 |
| 11:10 | 休憩 |
| 11:20 | 都市安全研究センターの先端研究紹介2
「因果関係？それとも前後関係？臨床研究の本質とは」
岩田 健太郎／都市安全研究センター・教授 |
| 12:20 | 閉会挨拶 岩田 健太郎／都市安全研究センター・副センター長 |
- 参加者：30名（廣瀬）

オープンゼミナール

<第232回神戸大学RCUSSオープンゼミナール>

日時：2018年4月21日（土）14時～17時

場所：神戸市役所4号館（危機管理センター）1階会議室

司会：神戸大学都市安全研究センター教授（センター長） 長尾 毅

共催：神戸市危機管理室、神戸市消防局

後援：兵庫県

内容：

① 地域における津波時の避難誘導のあり方ー東日本大震災での経験から考える

北後明彦 神戸大学都市安全研究センター教授

これまでの津波や今後の南海トラフ巨大地震等が発生した場合の津波からの避難においては、1. 津波発生情報の避難対象者への伝達と避難誘導、2. 避難対象者の津波への認識と対応行動、3. 車避難による交通渋滞発生、4. 避難経路上の建築物・橋梁などの地震被害による通行障害、5. 夜間に津波が発生した場合の避難誘導、6. 避難行動要支援者の避難行動支援などが課題となる。本講演では、東日本大震災での津波を経験した要配慮者利用施設や対応にあたった消防団等への聞き取り調査の結果等を紹介しつつ、地域における避難誘導のあり方について示した。

② 高齢化と災害地域のリジリエンス

～宮城県気仙沼市鹿折地区の復興の現状と復興のエネルギー～

吉田千春 元 気仙沼市鹿折まちづくり協議会地域活性化支援員

東日本大震災から8年目を歩みだしました。私の生活する宮城県気仙沼市鹿折地区は震災前から過疎高齢化地域でした。東日本大震災では火災、津波、主要産業の水産業を中心とした産業がダメージを受け三重苦の被害と評されました。震災後の地域は更に分断、高齢化の加速、過疎化という三重苦を更に背負うことになりました。ハード面回復は進められても、地域を構成する人、人の心の復興はなかなか進んでいないのが現状です。地域のリジリエンスのエネルギーについてお話していただいた。

参加者：66人（北後）

<第233回神戸大学RCUSSオープンゼミナール>

日時：2018年5月19日（土）14時～17時

場所：神戸市役所4号館（危機管理センター）1階会議室

司会：神戸大学都市安全研究センター 教授 飯塚 敦

共催：神戸市危機管理室、神戸市消防局

後援：兵庫県

プログラム

①対象区域内の要配慮者利用施設における避難確保計画策定等の義務化について

星野誠治 神戸市危機管理室 危機対応担当課長

一昨年8月の台風10号による水害で岩手県岩泉町の要配慮者利用施設での被災で深刻な人的被害が発生したことを契機とする昨年の6月の水防法・土砂災害防止法の改正により、全国の浸水想定区域や土砂災害警戒区域内の市町村地域防災計画で示された要配慮者利用施設の管理者等は、豪雨時等の避難が必要な際に備えて、各施設ごとに避難確保計画の作成や避難訓練を実施することが義務となった。そこで、水防法・土砂災害防止法の改正の趣旨、対象となる要配慮者利用施設、避難確保計画作成及び避難訓練の実施の義務が課される所有者又は管理者、避難確保計画作成に係る支援、避難確保計画を作成していない指定要配慮者利用施設への対応等について説明した。

②要配慮者利用施設における避難確保計画作成のポイント

北後明彦 神戸大学都市安全研究センター教授

避難確保計画作成の際に考慮すべきポイントとして、施設の立地場所の危険確認、避難先（施設周辺にある洪水や土砂災害から安全な避難場所、または、堅固な施設内の上階）と避難経路の選定、避難先までの避難に必要な時間（所要避難誘導時間）の算定、警戒態勢と必要人員・移動手段の確保、情報を活用した避難開始のタイミング（所要避難誘導時間、避難誘導中の避難経路の安全性との関係）、避難場所・避難経路の整備（改善が必要な場合）、訓練の実施等について検討した。

③行政による避難関連情報の現状に関するレビュー（兵庫県、神戸市を中心として）

小林健一郎 神戸大学都市安全研究センター准教授

2016年8月の台風10号による水害を契機に「避難勧告等の判断・伝達マニュアル作成ガイドラインに関する検討会」が開催され、「平成28年台風第10号災害を踏まえた課題と対策の在り方（報告）」が示された。本発表ではこのレビューを行い、また兵庫県、神戸市による避難情報の基準や、気象庁による気象情報について復習した。

参加者：76人（北後）

<第234回神戸大学RCUSSオープンゼミナール>

日時：2018年6月16日（土）14時～17時

場所：神戸市役所4号館（危機管理センター）1階会議室

司会：神戸大学都市安全研究センター 教授 北後 明彦

共催：神戸市危機管理室、神戸市消防局

後援：兵庫県

内容：

① 要配慮者利用施設における土砂災害リスクの把握と避難方法の選択

沖村 孝 神戸大学名誉教授、（財）建設工学研究所常務理事

土砂災害警戒区域内の市町村地域防災計画で示された要配慮者利用施設では、その立地する場所での土砂災害リスクを把握し、土砂災害の発生が予想される際には、リスクに応じた避難方法を選択することになる。土砂災害防止法に基づき都道府県知事が指定する土砂災害警戒区域は、土砂災害が発生した場合に、住民等の生命または身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域である。土砂災害の種類・規模や要配慮者施設の立地する位置や敷地周辺の地形等に応じて土砂災害リスクががけ崩れや土石流など異なることを示し、施設の構造によっては土砂災害とは反対側での施設内上階への避難による対応が可能な場合と、土砂災害リスクから考えて施設にとどまらず、あらかじめ安全な避難先に要配慮者を搬送しておく必要がある場合があることについての考察が示された。加えて、要配慮者利用施設の避難行動には地域の支援が必要であることについて言及があった。

② 雨量レーダー等から得られる情報を活用した避難開始のタイミング判断

大石 哲 神戸大学都市安全研究センター教授

台風が接近したり大雨の恐れのある際には、テレビ、スマホ、携帯電話などで情報を集め、集めた情報をもとに避難のタイミングを決め、安全な場所への避難を開始することになる。これらの手段で提供される情報は、細かな地域に応じた気象状況などが提供される場合も次第に増えてきましたが、より限定的な範囲での豪雨により大きな被害をもたらす洪水や土砂災害が、この間、発生してきており、よりきめ細かな状況把握を行うことによって、より適切な避難のタイミングを決めることが可能となる。より細やかな気象状況については、インターネットで提供される「高解像度降水ナウキャスト（気象庁）」「解析雨量・降水短時間予報（気象庁）」「神戸市降雨情報（神戸市）」「兵庫県地域別土砂災害危険度（兵庫県）」「六甲山系の降雨状況（試験運用、国土交通省近畿地方整備局六甲砂防事務所）」等の雨量レーダー等から得られる情報を活用することが考えられる。このような詳細な気象情報と要配慮者利用施設の立地場所の土砂災害リスクから考えられる影響の度合いの見積もりから、避難のタイミングをどのように考えていくのかの考察が示された。

参加者：63人（北後）

<第235回神戸大学RCUSSオープンゼミナール>

日時：2018年7月14日（土）14時～17時

場所：神戸市役所4号館（危機管理センター）1階会議室

司会：神戸大学都市安全研究センター 教授 北後 明彦

共催：神戸市危機管理室、神戸市消防局

後援：兵庫県

① 要配慮者利用施設における避難確保計画作成上の留意事項

宇田川 真之 東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター 特任助教

内閣府（防災担当）のモデル事業として全国の要配慮者施設の参考となるように施設管理者や関係行政機関等が連携して編集された「要配慮者利用施設における避難確保計画作成事例集（水害・土砂災害）」の中から、河川氾濫の事例を中心に紹介し、作成過程において検討課題となった事項などを報告していただきました。

② 地域を知り、防災を考える ―最近の豪雨災害事例から学ぶこと―

牛山 素行 静岡大学 防災総合センター 教授

我が国の風水害は、被害規模は経年的に激減しているものの、毎年各地で繰り返し発生している。近年の風水害による人的被害の特徴に関する研究結果を紹介した上で、防災を考える上では地域の災害特性を知ること、様々な災害情報を活用することなどの重要性について論じた。
参加者：78人（北後）

<第236回神戸大学RCUSSオープンゼミナール>

日時：2018年8月18日（土）14時～17時

場所：神戸市役所4号館（危機管理センター）1階会議室

司会：神戸大学都市安全研究センター 教授 北後 明彦

共催：神戸市危機管理室、神戸市消防局

後援：兵庫県

内容：

① 組織の安全配慮義務と事業継続計画（BCP）

～大川小学校津波訴訟判決の教訓と防災を自分ごとにする人づくり～

岡本 正 銀座パートナーズ法律事務所 弁護士・博士(法学)・慶應義塾大学講師

東日本大震災で多数の犠牲者を出した石巻市立大川小学校に関する津波訴訟の控訴審判決が今年4月にあった。大川小のほか十数件におよぶ津波訴訟の裁判経過や判決を分析した研究成果をもとに、企業や行政機関が災害時に果たすべき「安全配慮義務」や会社役員の「善管注意義務」とは何かについて、危機管理と防災・減災の視点から教訓を抽出した。具体的に組織の事業継続計画（BCP）や危機管理マニュアルに教訓をどう反映すべきか、組織で採用すべき人材育成や教育研修のプログラムとは何か、について、講師が創設した『災害復興法学』の観点を踏まえつつ解説した。

② これからの消防法学の展望

山崎 栄一 関西大学社会安全学部教授

発表者は、2018年6月より月刊消防（東京法令出版）にて「消防法学入門」を連載している。この連載をきっかけに、消防法の世界における二つの大きな特徴と問いが見えてきた。それは、消防法制をコンスタントに研究している行政法学者が皆無であり、消防実務家によって消防法学が発達を遂げているという点である。そのこともあって、消防法の解釈論が数十年前の行政法のテキストに基づいて展開されている。語弊を恐れずにいえば「消防法学のガラパゴス化」ともいえる現象が起こっている。このような状況をどのように評価すべきなのであろうか。新たな消防法学の可能性はないのであろうか。他方、消防業務の多くの部分は、消防法令を常に意識しながら活動することが求められており、実務的な視点に基づいた消防法テキスト・実務テキストが多く普及している。そして、これらのテキストに基づいて、消防に関する法務が実施されているのである。同じく語弊を恐れずにいえば「消防法学における実務と学問の遊離」ともいえる現象が起こっている。消防法学における実務と学問の融合はあり得るのであろうか。このような中で、消防職員に対して、どのような法教育を展開すればいいのであろうか。そもそも論として、学問的な視点から法学や行政法学を教える意味が一体どこにあるのであろうか。以上のまとめとして、今後の消防法学のあり方についての見解が示された。

参加者：89人（北後）

<第237回神戸大学RCUSSオープンゼミナール>

日時：2018年9月15日（土）14時～17時

場所：神戸市役所4号館（危機管理センター）1階会議室

司会：神戸大学都市安全研究センター 教授 北後 明彦

共催：神戸市危機管理室、神戸市消防局

後援：兵庫県

内容：

① 津波災害からの復興における安全性の検討過程の課題を考える

荒木 裕子 名古屋大学減災連携研究センター特任准教授

時に災害からの復興では、生活や地域の再建と安全性の確保のための考え方や方法が対立する構図が見られます。東日本大震災後の復興の方針として政府からは「減災」の考え方が示されましたが、東日本大震災後の被災地では、防潮堤の建設による津波防御と災害危険区域の指定による居住制限が主要な津波対策として行われている。

どのような方針が国から、また主な防潮堤の設置者である岩手県、宮城県から示されたのか見てみると、岩手県と宮城県では違いがあった。これら国と県の方針に加えて、災害危険区域の指定者である市町村の検討過程と、実際の災害危険区域の指定事例も用いながら、「安全性と地域再建の検討は統合して行われたのか」、「復興事業のあり方が災害危険区域指定に影響を与えたのか」、「災害危険区域の指定手法は地域性を反映できるものだったか」の3点から、災害復興期の地域再建と安全性の検討過程の課題についての考察が示された。

② 国家による安全確保義務の後退と地域防災の課題

金子 由芳 神戸大学大学院国際協力研究科教授

神戸大学都市安全研究センター教授

国家は国民の安全確保についてどこまでの責任を有するのかが問われてきた。1961年制定の日本の災害対策基本法は、目的規定（1条）において「国土並びに国民の生命、身体及び財産」の保護を掲げ、国はこのために「組織及び機能の全てを挙げて」「万全の措置を講ずる」責務を有するとする（3条）。都道府県（4条）や市町村（5条）もまた同様の責務を負う。安全確保義務と称される行政責任である。

しかし2011年東日本大震災の教訓を受けて実施された2013年の災害対策基本法改正では、新たに「基本理念」（2条の2）なる規定が設けられ、国・都道府県・市町村等の責務（3条以下）についても、逐一この基本理念規定に言及する修正が加えられた。このことにより、国家の安全確保義務の射程が狭いものであることが明示されたと考えられる。またこれを補う自助や共助の活性化が問われることになる。本講演においては、前半で国家による安全確保義務がどのように限定されたかを確認し、後半でこうした国家の後退を補う地域主体の安全対策の選択へ向けた制度条件を探った。

参加者：51人（北後）

<第238回神戸大学RCUSSオープンゼミナール>

日時：2018年10月20日（土）14時～17時

場所：神戸市役所4号館（危機管理センター）1階会議室

司会：神戸大学都市安全研究センター 教授 北後 明彦

共催：神戸市危機管理室、神戸市消防局

後援：兵庫県

内容：

① 新潟県糸魚川市における大規模火災の被害概要と発生要因

岩見 達也 国立研究開発法人建築研究所 住宅・都市研究グループ主任研究員

2016年12月に発生した新潟県糸魚川市における大規模火災に関して、現地調査や、空撮映像等に基づく延焼状況の推定、飛び火による延焼過程を確認するための火災実験、焼損区域を対象としたシミュレーションによる建物構造と延焼状況の確認等の分析結果を紹介した。

② 南海トラフ地震に伴う都市火災リスクの評価ー主に大阪市を対象にしてー

西野 智研 京都大学防災研究所 准教授

大きな地震が都市を襲うと、複数の火災が市街地で同時に発生し、消防力で対応可能な規模を上回ることによって、一部の火災は大規模な延焼火災に発展する可能性がある。

本発表では、近い将来の発生が予想される南海トラフ地震に着目し、（1）地震に伴う火災の発生件数が震源域や地震の規模、地震の発生時期によってどのようにばらつくのか、（2）地震の影響で消防水利が使用できない場合、延焼火災によって建物が被害を受ける確率は一棟一棟で見るとどのくらいの確率になるのか、（3）出火防止対策として設置の必要性が指摘されている感震ブレーカーの普及率向上により、火災の発生件数や延焼火災による建物の被害確率はどのくらい軽減できるのか、に関して、主に大阪市を対象に地震火災リスク評価を行った結果を紹介した。

参加者：67人（北後）

<第239回神戸大学RCUSSオープンゼミナール>

日時：2018年11月17日（土）14時～17時

場所：神戸市役所4号館（危機管理センター）1階会議室

司会：神戸大学地域連携推進室学術研究員 山地久美子

共催：神戸市危機管理室、神戸市消防局

後援：兵庫県

内容：

① 建物の火災安全の考え方

鍵屋 浩司 国立研究開発法人建築研究所 防火研究グループ上席研究員

建物の火災安全の考え方とその仕組みについて紹介した。具体的には、高層ビルの中で火事が起きたときにビルの中の人が煙に巻かれないように安全に避難するための建物のしくみやその背景について示した。

② 地域の災害からの実効性のある安全確保の考え方

～不確実性の克服のための予防的措置としての「予防的避難」～

北後 明彦 神戸大学都市安全研究センター 教授

地域における災害から安全を確保するための考え方とそのための手立てについて紹介した。その上で、本報告では、現地調査や様々な機関で行われた調査結果により西日本豪雨災害等での災害発生・避難状況を示し、頻繁な災害情報で知らされても低い確度で発生すると見積もって、浸水等の現象を見るまで避難せず、現象を見てから対応的な避難を行う人の割合が高い一方、早めの情報で予防的な避難ができていいるのは一部にとどまることを示した。また、岡山県高梁川流域では、浸水によりアルミ工場で爆発が発生し、一般的には予想されていない複合災害の様相となった。このように、災害をもたらす現象の発生について不確実性があるために安全を確保するための手立てが実効性のないものとなりがちであり、これを克服するためには環境政策では原則となっている予防的措置を取り入れ、「空振り」と考えずに「予防的避難」を行うことが常識となるようにすることが望まれる。さらにその場合の前提として、予防的避難に見合った避難所の整備などが課題となることを示した。

参加者：47人（北後）

<第240回神戸大学RCUSSオープンゼミナール>

日時：2018年12月15日（土）14時～17時

場所：神戸市役所4号館（危機管理センター）1階会議室

司会：神戸大学都市安全研究センター 教授 北後 明彦

共催：神戸市危機管理室、神戸市消防局

後援：兵庫県

内容：

① 歴史的町並み保存の先進事例の紹介と法制度への反映の取り組み

水上点晴 国土技術政策総合研究所 建築研究部 防火基準研究室 主任研究官

地域創生の政策として、地域資源である歴史的な既存建物の利活用が期待されている。しかしその多くは現在の建築基準法の要求耐火水準を満たさない既存不適格建造物であり、防火改修が必要となる場合が多い。そこで歴史的町並み保存の先進事例である、京都市祇園や佐賀県鹿島、大分県臼杵における防火対策を紹介しながら、地域の特殊が故に魅力なその文化的価値の維持と、評価手法の一般化を両立する取組について、昨今の法制度への反映を目指した動きと併せて紹介した。

② 文化財建造物や歴史的まち並みの防火・防災

関澤 愛 東京理科大学総合研究院 教授

文化財建造物の多くは伝統的な木造建造物が多く、それゆえに建築基準法では3条1項で適用除外の措置をとっている。しかし、不特定多数の見学者や利用者のいる文化財建造物も少なくなく、保存活用計画の中では、個別に耐震、防火、避難安全の対策を立てる必要がある。本講

義では、火災と消火の基礎について学ぶとともに、なぜ地域での自主防災が必要かについても示された。

参加者：47人（北後）

<第241回神戸大学RCUSSオープンゼミナール>

日 時：2019年1月26日（土）14時～17時

場 所：神戸市役所4号館（危機管理センター）1階会議室

MAP：<http://open.kobe-u.rcuss-usm.jp/p/access.html>

司 会：神戸大学都市安全研究センター 教授 北後 明彦

共 催：神戸市危機管理室、神戸市消防局

後 援：兵庫県

内 容：

- ① ネパールにおける2015年ゴルカ地震の発生メカニズム、被害状況及び地震後対応の諸側面
(Origin, Consequences, and Management Aspects of Gorkha Nepal Earthquake 2015)

T. N. マッタライ トリブワン大学地質学部教授、神戸大学都市安全研究センター客員教授
(Professor T. N. Bhattarai, Department of Geology, Tribhuvan University, Kathmandu, Nepal)

2015年4月25日(土)午前11時56分に、破壊的な地震(Mw 7.8、深度8.2 km)がネパール西部を襲った。この地震で約9,000人の死者と約2,2300人の怪我人が出た。498,852戸の住宅が全壊、256,697戸が半壊となった。また、カトマンズ盆地とその周辺の745以上の歴史的な建築物や寺院が倒壊した。さらに、数千か所に渡って土砂災害が発生し、道路、居住地、住宅、学校、病院、及び、耕作地に重大な損傷を与えた。

講演者のマッタライ教授は、現在、ネパールの地震後に設立された復興事業に責任を負う復興庁(NRA)の運営委員会メンバーである。この講演では、地震直後の被害状況の説明とその直後の対応から得られた教訓、及び、NRAが設立された後の復興事業の完了及び進行状況を示す。最後に、社会的及び技術的な問題点について議論をした。

(On Saturday, 25 April 2015 at 11:56 local time, a destructive earthquake (Mw 7.8, hypocenter: 8.2km deep) struck western Nepal. The earthquake caused about 9000 casualties and 22,300 injuries. A total of 498,852 houses were fully collapsed and 256,697 houses were partly damaged. About 7,000 schools were collapsed. 745 monuments in and around the Kathmandu Valley were also damaged. In addition, thousands of landslides also occurred which significantly damaged highways, settlements, residential buildings, schools, hospitals, and cultivated lands.

The presenter is currently serving as a member of Steering Committee of the National Reconstruction Authority (NRA), the sole responsible organization for all the post-earthquake reconstruction works in Nepal. The presentation gives an account of the challenges faced, and lesson learned immediately after the earthquake. It will then highlight the completed and on-going reconstruction activities undertaken by the NRA. The major social and technical issues being immersed will also discussed.)

(①は、②のDr. T. N. Lohaniが日本語に訳した。)

- ② 2015年ゴルカ地震から分かる災害軽減策推進上の課題：発展途上国の現実とは？

(Implementation challenges of disaster mitigation understood from 2015 Gorkha Earthquake: How different are the realities of developing countries?)

Dr. T. N. Lohani 神戸大学都市安全研究センター技術専門職員

自然災害は予めの情報を得て起こることはないとは誰がわかる。従って、どんなタイプ・スケールの災害にも対応できるように備えるしか選択肢がない。しかし、新たな対応への試みは追加的な財源が必要だが、発展途上国には財政上の限界がある。特に、開発途上国には最低のインフラとかも整ってない状態では、災害対策の準備は難しい。ネパールの場合でも、政府はかなり以前から5箇年の開発計画や10箇年の開発計画を作成してきているにもかかわらず、必要なインフラがまだできてない。2015年の地震でも、奥地への道路環境が悪いためアクセスし

にくく、また、医療施設等の不備により、山間部の村での人的被害が増えたと言える。2015年の地震は、過去の発生傾向から見て近い将来に起こると専門家によって予測されていた地震に該当するが、この地震への準備が不十分だったことが被害規模から見てわかる。住宅・内政省内には救援活動について対応する組織があったが、災害対策サイクル全体を責任をもって対応する組織はありませんでした。では、このような欠点はすべて無くすることができるか？災害後の理想的な対応手順はどのようなもののでしょうか？ 2015年のゴルカ地震に関連する問題を中心に説明した。

(Everybody knows that natural disasters do not occur with pre-information. So, there is no alternative of being prepared for any type of disaster. However, every new effort necessitates an additional budgetary requirement that developing countries are not always prepared with. In Nepal's case too, there are enough reasons to say that difficulties in accessing remote sites due to poor road networks, poor health facilities had increased the human casualties figure although Nepalese government is preparing many 5-year and 10-year development plans since very long. The 2015 earthquake was an expected event by the experts on looking the past recurring interval but insufficient preparation can be understood from the large scale of earthquake damage. There was just a unit inside the Ministry of Housing and Internal Affairs (MoHA) to look on the relief works and no any responsible organization was working on disaster mitigation cycle as a whole. Can all such shortcomings be fulfilled? What could be the ideal aftermath scenario of disasters? Issues relevant with 2015 Gorkha Earthquake and Nepal will be covered.)

参加者：43人（北後）

<第242回神戸大学RCUSSオープンゼミナール>

日時：2019年2月23日（土）14時～17時

場所：神戸市役所4号館（危機管理センター）1階会議室

司会：神戸大学都市安全研究センター 教授 北後 明彦

共催：神戸市危機管理室、神戸市消防局

後援：兵庫県

内容：

① 液状化被害を知る・防ぐ

ー被害を受けやすい土地の見分け方と被害への備えー

若松 加寿江 関東学院大学 防災・減災・復興学研究所研究員（元 理工学部教授）

地盤の液状化による被害は、毎年のように日本のどこかで起きている。昨年9月の北海道の地震では、札幌市などのベットタウンで液状化が起こり、多数の住宅が被害を受けた。1995年の阪神・淡路大震災では神戸から大阪にかけての地域で液状化が広範囲に発生し、神戸港が壊滅的な被害を受けた。液状化は、急傾斜地で起きる土砂災害など異なり、脅威の対象が普段見えない。それだけに被災者にとっては「晴天の霹靂」の災害であり

講演では、地盤が液状化するとどんな被害を受けるか、どんな土地が被害を受けやすいか、を解説すると共に、液状化被害を防ぐための対策や日頃の備えについて示した。

② 液状化研究の成果と課題

田中泰雄 神戸大学名誉教授 都市安全研究センター特別研究員、UTAR大学アジャнкт教授

地盤の液状化現象についての工学的研究は、1964年の新潟地震以降に開始され、その発生メカニズムや、液状化被害解明のための地盤調査&試験方法についての研究が50年以上蓄積されてきました。一方で、1995年の阪神・淡路大震災や2011年のニュージーランドのクライストチャーチ地震や、東日本大震災、更には昨年のインドネシア東部等で、甚大な液状化被害が発生しています。学術研究の進展と現社会での液状化被害及び生じる災害とのギャップについて短くレビューし、その差を狭めるにはどうすれば良いかを議論した。

参加者：43人（北後）

<第243回神戸大学RCUSSオープンゼミナール>

日 時：2019年3月16日（土）14時～17時

場 所：神戸市役所4号館（危機管理センター）1階会議室

司 会：神戸大学都市安全研究センター 教授 北後 明彦

共 催：神戸市危機管理室、神戸市消防局

科研費基盤研究B「被災者支援レジーム／復興まちづくりの国際比較研究－ジェンダーの視点から」

後 援：兵庫県

内 容：

① 街ができた！住民も復興の担い手だ

鈴木清美 南三陸町障がい者自立支援協議会会長／南三陸町おもちゃの図書館いそひよ代表
東日本大震災で壊滅的被害を受けた南三陸町は、『職住分離』を基本に安全安心のまちづくりに舵を切った。防潮堤や避難道、嵩上げ工事、災害公営住宅の整備など、ハード面の復興事業は概ね完了した8年目の春となった。では、人口減少や高齢化が進む田舎町で、住民はどのように生活し始めているのか？！震災直後から懸念されていた、生業の再建、買い物や通院などの移動手段、そして福祉やコミュニティ……課題解決に取り組む一例を紹介した。

②復興と防災をつなぐ母子支援－宮城県石巻市の経験を活かす大阪市での試み－

田間泰子 大阪府立大学人間社会システム科学研究科教授

妊産婦さんたちに災害への備えの姿勢をもっていただくことは、社会にとって非常に重要である。しかし、彼女たちへの防災教育は、「妊娠」というできごと独特の困難があって難しい状況である。本報告では、宮城県のNP0ベビースマイル石巻の協力で得た妊産婦さん向け冊子を紹介し、彼女たちと阪神・淡路大震災以降の妊産婦さんの声を参考にして、大阪市内で実施している妊産婦向け防災セミナーの成果と課題について示された。

③Re:START（リ・スタート）社会ニュージーランド／カンタベリー地震後の生活再建と住宅

山地久美子 神戸大学地域連携推進室学術研究員

日本では被災者一人ひとりに寄りそう丁寧な災害支援が求められる。それを社会全体から見ると「なぜ被災者への支援を手厚くするのか」ということは明確になっているとはいえない。報告者はこの枠組みを「被災者支援レジーム」と呼ぶ。被災者に手厚い施策は重要である。だが、それは平時で展開されてこそ人々の生活の基盤を強くし、事前復興となるのではないか。本報告では2010年、11年にカンタベリー地震に見舞われた、太平洋の福祉国家であるニュージーランドの被災者支援を福祉の視点から紹介し、日本の被災者支援と社会保障の連続性についての考えが示された。

参加者：52人（北後）

9.2 共催

特になし

9.3 中高生への説明会

広島大学附属高校スーパーサイエンスハイスクール サイエンスツアー研修

日時：平成30年9月14日

場所：神戸大学工学研究科

A班：岩田 健太郎

内容：「感染症に関するワークショップ」

B班：長尾 毅

内容：「地震の揺れについて考えてみよう」

C班：廣瀬 仁

内容：「GPS測位の原理と測定精度の調査-地震研究への応用-」

D班：大石 哲

内容：「雲の科学」

参加者：43名（大石）

模擬授業

日時：平成30年10月26日

場所：神戸大学理学研究科

内容：吉岡祥一「南海トラフで発生する海溝型巨大地震について」

9.4 その他

特になし

1 1. 国際・国内交流活動

研究集会「International Joint Workshop on Slow Earthquakes 2018」

平成30年9月21日～23日，アクロス福岡

概要：新学術領域「スロー地震学」、東京大学地震研究所 地震・火山噴火予知研究協議会「海溝型地震」研究推進部会、東京大学地震研究所・京都大学防災研究所の共同利用研究集会の合同で、スロー地震に関する国際研究集会を開催した。129名の参加者のうち外国人参加者が31名であった。

主催者：廣瀬仁ほか

韓国消防技術士協会への消防法令の概要紹介

平成30年10月19日，神戸市消防局会議室

概要：韓国消防技術士協会の3名に対して、神戸市消防局から日本における消防法令の概要・運用状況を説明していただき、運用状況について討議した。

受入者：北後明彦

13. 研究費

13.1 科学研究費

研究題目：日本下のプレート沈み込みとマントルウェッジの温度場・水輸送・異方性のダイナミクス

研究種目：基盤研究（B）

研究者：吉岡祥一

代表／分担：代表

受入金額：2,700千円

研究題目：低速変形から高速すべりまでの地球科学的モデル構築

研究種目：新学術領域研究「スロー地震学」

研究者：吉岡祥一

代表／分担：分担

受入金額：2,900千円

研究題目：測地観測によるスロー地震の物理像の解明

研究種目：新学術領域研究（研究領域提案型）「スロー地震学」計画研究

研究者：廣瀬仁

代表／分担：代表

受入金額：71,500千円

研究題目：スロー地震学

研究種目：新学術領域研究（研究領域提案型）「スロー地震学」総括班

研究者：廣瀬仁

代表／分担：分担

受入金額：100千円

研究題目：スロー地震学の国際展開

研究種目：新学術領域研究（研究領域提案型）「スロー地震学」国際活動支援班

研究者：廣瀬仁

代表／分担：分担

受入金額：100千円

研究題目：地殻変動と地震活動に基づくスロースリップイベント像の解明

研究種目：基盤研究(C)

研究者：廣瀬仁

代表／分担：代表

受入金額：700千円

研究題目：高剛性基礎式栈橋の耐震設計法の開発に関する研究

研究種目：基盤研究(C)

研究者：長尾 毅

代表／分担：代表

受け入れ金額：1600 千円

研究題目：被災者支援レジーム／復興まちづくりの国際比較研究－ジェンダーの視点から

研究種目：基盤研究(B)
研究者：北後明彦
代表／分担：分担
受け入れ金額：500千円

研究題目：アジア災害地域のコミュニティ参加型減災社会制度基盤の比較研究
研究種目：基盤研究(B)
研究者：北後明彦
代表／分担：分担
受け入れ金額：300千円

研究題目：安全と生活・地域再建を考慮した災害危険区域指定手法の検討
研究種目：基盤研究(C)
研究者：北後明彦
代表／分担：分担
受け入れ金額：411千円

研究題目：大振幅地震動対応アクティブ系振動制御構造と非線形ハイブリッドシミュレーション検証
研究種目：基盤研究(B)
研究者：藤永隆
代表／分担：分担
受け入れ金額：300千円

研究題目：障がい者の複数モダリティを用いたコミュニケーション支援技術の研究
研究種目：基盤研究 (B)
研究者：滝口哲也
代表／分担：代表
受入金額：3,640千円

研究題目：言語脳神経活動の解析に基づく発話障がい者のコミュニケーション支援技術の基礎研究
研究種目：挑戦的研究（萌芽）
研究者：滝口哲也
代表／分担：代表
受入金額：1,820千円

研究題目：データサイエンスのアプローチによる金融リスク管理とその波及メカニズムに関する研究
研究種目：基盤研究 (A)
研究者：滝口哲也
代表／分担：分担
受入金額：500千円

研究題目：市場経済の持続的成長可能性に関する研究：データサイエンスによる挑戦
研究種目：挑戦的研究（萌芽）
研究者：滝口哲也
代表／分担：分担
受入金額：200 千円

研究題目：高分解能土砂災害警戒情報の確率的指標作成と活用に関する研究

研究種目：基盤研究(B)

研究者：大石哲

代表／分担：代表

受け入れ金額：5,800 千円

研究題目：レーダーと電場数値モデルからなる火山雷ハイブリッドモデルの開発に関する研究

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究者：大石哲

代表／分担：代表

受け入れ金額：700 千円

研究題目：最新型偏波レーダーとビデオゾンデの同期集中観測と水災害軽減に向けた総合的基礎研究

研究種目：基盤研究(S)

研究者：大石哲

代表／分担：分担

受け入れ金額：2,000 千円

研究題目：高分解能土砂災害警戒情報の確率的指標作成と活用に関する研究

研究種目：基盤研究(B)

研究者：小林健一郎

代表／分担：分担

研究題目：平成 30 年台風 21 号による強風・高潮災害の総合研究

研究種目：特別研究促進費

研究者：梶川 義幸

代表／分担：分担

受け入れ金額：250 千円

13.2 共同研究

14. 教育活動

14.1 講義科目

工学部

- (飯塚) 市民工学倫理 (分担), 連続体力学, 国際関係論 (分担), 地盤基礎工学 (分担)
- (北後) 地域安全論 (分担), まちづくり論 (分担), 建築計画A, 建築・都市安全計画A, 設計演習 (分担), 計画演習 (分担), 建築演習 (分担)
- (長尾) 構造力学Ⅰ, 土木設計学, 構造動力学 (分担), 市民工学概論 (分担), 創造思考ゼミナールⅡ (分担)
- (大石) 水文学 (分担), 市民工学概論 (分担), 初年次セミナー (分担), 資源材料とエネルギー (分担)
- (梶川)
- (橘) 実験及び安全指導 (分担), 創造思考ゼミナールⅠ (分担), 土質力学Ⅱ及び演習 (分担)
- (藤永) 防災構造工学 A, 防災構造工学 B, 建築工学実験 (分担), 構造設計Ⅱ (分担), 初年次セミナー (分担)
- (滝口) デジタル信号処理
- (小林) 水文学 (分担), 実験及び安全指導 (分担), 工学の基礎, 市民工学倫理 (分担), 創造思考ゼミナールⅠ (分担)

理学部

- (吉岡) 固体地球物理学Ⅰ-1, 惑星学基礎Ⅱ-1, 2, 惑星学実習A (分担), 初年次セミナー (分担), 高度教養セミナー理学部惑星学入門 (分担)
- (廣瀬) 初年次セミナー (分担), 惑星学基礎Ⅰ-1, 固体地球物理学Ⅰ-2, 固体地球科学1, 2 (分担), 惑星学実習A (分担), 高度教養セミナー理学部惑星学入門 (分担)

医学部

- (岩田)
- 医学科: 卒後臨床研修医指導 (感染症内科), 学部生チュートリアル (4年次), 学部生BSL (5年次, 6年次), 感染症後期研修 (感染症内科)、微生物学講義 (3年次)、薬理学講義
- 保健学研究科: 健康危機管理特講
- (大路)
- 医学科: 卒後臨床研修医指導 (感染症内科), 学部生チュートリアル (全科), 学部生BSL (5年次, 6年次), 臨床検査医学実習 (分担)、抗酸菌感染症総論講義 (3年生)
- 保健学研究科: 感染症特講 (分担)、国際保健学 (分担)
- 医学・保健学・理学療法学、他大学共同講義: 「多職種協働」による実践 (IPW: Inter-Professional Work) 実習 (分担)

全学共通授業科目

- (吉岡) 総合教養科目「阪神・淡路大震災」 (分担), 基礎教養科目「惑星学C」 (分担)
- (北後) 総合教養科目「阪神・淡路大震災」 (分担)
- 教養原論「ものづくりと科学技術」 (分担)

(岩田) 総合教養科目「阪神・淡路大震災」 (分担)
(廣瀬) 基礎教養科目「惑星学C」 (分担)
(長尾) 総合教養科目「阪神・淡路大震災」 (分担)
(小林) 高度教養セミナー工学部 (市民工学) (分担)

大学院工学研究科博士課程前期課程

(飯塚) 固体計算力学 I (分担), 固体計算力学 II (分担), 固体計算力学 III (分担), 先端融合科学特論 (分担)
(北後) 避難計画特論 A・B, 先端融合科学特論 (分担)
(長尾) 地震工学特論 I
(大石) 流域システム, 土木技術英語 (分担)
(梶川) 気候システム論
(橘) 地盤基礎工学特論
(小林) 水文学と地理情報
(藤永) 構造解析学A・B

大学院システム情報学研究科

(滝口) ヒューマンコンピュータインタラクション論

大学院理学研究科博士課程前期課程

(吉岡) 惑星学要論 (分担), 特定研究 I II (分担)
(廣瀬) 惑星学通論 1 (分担), 先端融合科学特論 (分担)

大学院理学研究科博士課程後期課程

(廣瀬) 惑星学特論 1 (分担), 先端融合科学特論 (分担)

大学院国際協力研究科博士課程前期課程

(北後) 国際防災論、国際防災論演習、Disaster Risk Management

大学院工学研究科博士課程後期課程

(飯塚) 地下構造解析学 (分担), 先端融合科学特論 (分担)
(北後) 建築都市安全計画学, 先端融合科学特論 (分担)
(長尾) 地震防災工学
(大石) 水資源計画
(梶川)
(橘) 担当なし
(藤永) 空間骨組構成論
(小林) 河川流域計画論

大学院システム情報学研究科博士課程後期課程

(滝口) 知能情報特論

15. 研究業績

15.1 研究現状の紹介（研究テーマ）

リスク・アセスメント研究部門

地盤環境リスク評価研究分野

主な研究テーマ：持続可能な減災社会インフラ構築のための地盤安全環境評価手法の確立
液状化などの地盤の動的挙動を表現できる地盤材料構成モデルの高度化
広域地盤モデル作成のための地盤物性の把握と入力パラメータの決定法の開発
深海底サンプリングにおける応力変化が土供試体の力学特性に及ぼす影響の定量的評価手法の開発
プレート境界デコルマ帯における変質に伴う力学特性変化の定量化モデルの開発とアスペリティー形成の可能性の検討
デコルマ帯に見られるモンモリロナイト含有粘性土の力学特性の把握とその構成モデル化
放射性廃棄物地層処分におけるモンモリロナイト含有粘性土（ベントナイト材料）の力学特性および変質に伴う力学特性変化の数理モデルの開発

地震災害リスク評価研究分野

主な研究テーマ：東海・東南海・南海地震の固着域の推定
プレートの沈み込みに伴う温度分布の推定
SSEと群発地震の連動メカニズムの解明
強震動の性質と発生メカニズム
震源過程
地震発生論
地震破壊の進展メカニズムに関する数値解析
断層のすべりの生成機構に関する研究
三次元地震波動・津波・破壊の数値シミュレーション

リスク・マネジメント研究部門

社会基盤マネジメント研究分野

主な研究テーマ：地震動の増幅特性の評価法に関する研究
構造物の設計地震動に関する研究
被害地震の地震動評価に関する研究
構造物の耐震性能照査法に関する研究
構造物の耐震信頼性評価に関する研究
杭・地盤相互作用評価に関する研究

減災エリアマネジメント研究分野

主な研究テーマ：都市・地域における安全計画に関する研究
災害時の都市復興計画に関する研究
建築における防火避難計画に関する研究
災害時要援護者の避難安全対策に関する研究
既存不適格建築物の耐震補強に関する研究
被災構造物の補修・補強に関する研究
鋼・コンクリート合成構造に関する研究

リスク・コミュニケーション研究部門

情報コミュニケーション研究分野

主な研究テーマ：マルチメディア処理の研究
機械学習に関する研究
画像処理・認識の研究
音声認識・音響情報処理の研究
マンマシーン・コミュニケーションに関する研究
障がい者インターフェースに関する研究

安全コミュニケーション研究分野

主な研究テーマ：リスクコミュニケーションツールとしてのハザードマップの活用方法
次世代型偏波レーダーによる降水量推定・降水予測の高精度化と水管理へのインパクト評価
短時間降雨予測の不確実情報を用いた住民へのリスクコミュニケーションに関する研究
次世代型洪水流出・氾濫モデルの開発
洪水時の避難行動モデルの開発

感染症リスク・コミュニケーション研究分野

主な研究テーマ：都市安全の公衆衛生学的分析
災害対応の医療情報システム
医療技術のリスクと評価
リスク下での医学意思決定
TBLの研究
指導医講習会のあり方に関する研究
腸管スピロヘータ症の研究
ライム病の研究
東日本大震災と感染症に関する研究
パンデミックインフルエンザに関する研究
災害ボランティアにおける安全衛生
MRSA腸炎の存在証明に関する研究
アニサキス症予防のための魚介類冷凍の味覚に関する研究
結核喀痰塗抹採取時間に関する研究
感染症後期研修の質に関する研究

15.2 著 書

地域と災害，北後明彦，災害から一人ひとりを守る 地域づくりの基礎知識 4（北後明彦，大石哲，小川まり子編），神戸大学出版会，pp. 11～18，2019. 3

15.3 学術論文

（飯塚）

Finite strain finite element formulation of coupled solid-fluid mixture for dynamic problems

Charatpangoon, B., Furukawa, A., Kiyono, J., Tachibana, S., Takeyama, T. and Iizuka, A.,
International Journal of GEOMATE 15(51):1-8, 2018, DOI: 10.21660/2018.51.86896

(橘・飯塚)

Solute transfer during consolidation based on a solid-fluid-solute coupling model

Nomura, S., Kawai, K., Tachibana, S. and Iizuka, A., International Journal for Numerical and Analytical Methods in Geomechanics, pp. 1-25, 2018.

Analytical investigation of disturbance on seabed-sampled soil specimens and its influence on unconfined strength

Sugiyama, Y., Tachibana, S., Sakaguchi, H. and Iizuka, A., Soils and Foundations, Vol. 58, No. 3, pp. 689-701, 2018.

Elasto-plastic modeling of shear failure of the plate boundary decollement zone

Sugiyama, Y., Tachibana, S., Sakaguchi, H. and Iizuka, A., Geophysical Journal International, Vol. 216 (3), pp. 1890-1900, 2018.

Application of partitioned iterative coupling approach to multi-physics

Takeyama, T., Tachibana, S., Kitanoi, T. and Iizuka, A., Journal of Engineering and Construction, Vol. 8 (1), pp. 13-18, 2019.

(橘)

Geotechnical properties of sludge blended with crushed concrete and incineration ash

Iqbal, M.R., Hashimoto, K., Tachibana, S. and Kawamoto, K., International Journal of GEOMATE, Vol. 13, No. 16, pp. 116-123, 2019.

Effect of helix bending deflection on load settlement behaviour of screw pile

Malik, A.A., Kuwano, J., Tachibana, S. and Maejima, T., Acta Geotechnica, 2019. DOI: <https://doi.org/10.1007/s11440-019-00778-x>

(吉岡)

Subduction thermal structure, metamorphism and seismicity beneath northcentral Chile

Yingfeng Ji, Shoichi Yoshioka, Vlad Constantin Manea, Marina Manea and Nobuaki Suenaga, Journal of Geodynamics, in press, 2018

(廣瀬)

(長尾)

控え直杭式矢板岸壁の簡易耐震性能照査法における控え杭のモデル化方法の改善,

宮下健一朗, 長尾 毅, 土木学会論文集 A1 (構造・地震工学), Vol.74, No.4, p. I_686-I_698, 2018

震源のモデル化の違いによるスラブ内地震の予測地震動の比較,

福島康宏, 長尾 毅, 尾茂淳平, 末富岩雄, 土木学会論文集 A1 (構造・地震工学), Vol.74, No.4, p. I_1035-I_1044, 2018

Earthquake response of open-type wharf with pneumatic caisson foundation,

Shibata D. and Nagao T., SUSI2018, 2018.

Stochastic characteristic of site amplification factor and its effect on earthquake ground motion,

Fukushima Y. and Nagao T., RISK ANALYSIS 2018, 2018.

A simple estimation method of the probability distribution of residual displacement and maximum bending moment for pile supported wharf by earthquake,

Nagao T, Lu P, IALCCE2018, pp.2763-2768, 2018

(北後)

津波避難タワーにおける避難行動要支援者の垂直避難支援及び避難誘導に関する研究,

田中 宏幸, 北後 明彦, ピニエヒロ アベウ タイチ コンノ, 大津 暢人, 李 知香,

日本建築学会計画系論文集, 第 84 巻, 756 号, pp.415-424, 2019.2

津波避難訓練における避難開始状況の観測に基づく避難開始時間設定の再検討,

池田 明德, 北後 明彦, ピニエヒロ アベウ タイチ コンノ, 日本建築学会計画系論文集, 第 84 巻, 755 号, pp.159-165, 2019.1

街路に設置する津波避難誘導灯の有効性に関する検討,

秋月有紀, 北後明彦, 高嶋彰, 松井俊成, 武内芳夫, アベウ タイチ コンノ ピニエヒロ, 鈴木広隆, 安福健祐, 日本建築学会環境系論文集, 第 84 巻, 754 号, pp. 945-953, 2018.12

災害時の地域・地区支援拠点による支援構造に関する研究 –2016 年熊本地震益城町における避難者支援を事例として–,

荒木 裕子, 本塚 智貴, 坪井 塑太郎, 北後 明彦, 地域安全学会論文集, 第 33 巻, pp.1-9, 2018.11

津波災害復興における安全性検討過程の課題考察 –東日本大震災後の災害危険区域指定プロセスを通して–,

荒木裕子, 北後明彦, 日本災害復興学会論文集, 第 12 号, pp.1-11, 2018

(藤永)

ボルト接合鋼板拘束を施し SBPDN 鉄筋を主筋に用いた RC 柱のせん断耐力に関する研究,

竹内崇, 大仲菜保子, 藤永隆, 孫玉平: コンクリート工学年次論文集, Vol.40, No.2, pp.91-96, 2018 年 7 月

危険断面高さを考慮したコンクリート充填角形鋼管柱の解析的研究,

櫻井陽, 藤永隆, 竹内崇, 孫玉平: 鋼構造年次論文報告集, 第 26 巻, pp.36-42, 2018 年 11 月

(滝口)

Neutral-to-emotional voice conversion with cross-wavelet transform F0 using generative adversarial networks

Zhaojie Luo, Jinhui Chen, Tetsuya Takiguchi, and Yasuo Arikawa, APSIPA Transactions on Signal and Information Processing, doi.org/10.1017/ATSIP.2019.3, Vol. 8, 11 pages, March 2019

Semantic embeddings of generic objects for zero-shot learning

Tristan Hascoet, Yasuo Arikawa and Tetsuya Takiguchi, EURASIP Journal on Image and Video Processing, 14 pages, https://doi.org/10.1186/s13640-018-0371-x, 2019

Can We Forecast Daily Oil Futures Prices? Experimental Evidence from Convolutional Neural Networks

Zhaojie Luo, Xiaojing Cai, Katsuyuki Tanaka, Tetsuya Takiguchi, Takuji Kinkyo and Shigeyuki Hamori, Journal of Risk and Financial Management, Vol. 12, Issue 1, 13 pages, DOI 10.3390/jrfm12010009, 2019

Entropy policy for supervoxel agglomeration of neurite segmentation

Tristan Hascoet, Baptiste Metge, Tetsuya Takiguchi, Yasuo Arikawa, International Workshop on Frontiers of Computer Vision, 6 pages, Feb. 2019

Exemplar-based Lip-to-Speech Synthesis Using Convolutional Neural Networks

Yuki Takashima, Tetsuya Takiguchi, Yasuo Arikawa, International Workshop on Frontiers of Computer Vision, 5 pages, Feb. 2019

Polar Transformation on Image Features for Orientation-Invariant Representations

Jinhui Chen, Zhaojie Luo, Zhihong Zhang, Faliang Huang, Zhiling Ye, Tetsuya Takiguchi, Edwin R. Hancock, IEEE Transactions on Multimedia, Vol. 21, Issue 2, pp. 300-313, DOI: 10.1109/TMM.2018.2856121, 2018

Spectrum Enhancement of Singing Voice Using Deep Learning

Ryuka Nanzaka, Tsuyoshi Kitamura, Yuji Adachi, Kiyoto Tai, Tetsuya Takiguchi, IEEE ISM, pp. 167-170, Dec. 2018

Sound Recovery Considering the Vibration Direction of an Object in a Video

Yohei Fuse, Yusuke Yasumi, Tetsuya Takiguchi, IEEE ISM, pp. 171-174, Dec. 2018

User's Intention Understanding in Question-Answering System Using Attention-based LSTM

Yuki Matsuyoshi, Tetsuya Takiguchi, Yasuo Arikawa, APSIPA, pp. 1752-1755, Nov. 2018

Hybrid Text-to-Speech for Articulation Disorders with a Small Amount of Non-Parallel Data

Ryuka Nanzaka, Tetsuya Takiguchi, APSIPA, pp. 1761-1765, Nov. 2018

Sound Recovery Using Vibration Modes of the Object in a Video

Yohei Fuse, Yusuke Yasumi, Tetsuya Takiguchi, APSIPA, pp. 2027-2031, Nov. 2018

Oil Price Forecasting Using Supervised GANs with Continuous Wavelet Transform Features

Zhaojie Luo, Jinhui Chen, Xiao Jing Cai, Katsuyuki Tanaka, Tetsuya Takiguchi, Takuji Kinkyo, Shigeyuki Hamori, ICPR, pp. 830-835, Aug. 2018

Spatiotemporal Characteristics of Cortical Activities Associated with Articulation of Speech Perception

Naoki Saga, Hajime Yano, Tetsuya Takiguchi, Yoshiharu Soeta, Seiji Nakagawa, IEEE EMBC, pp. 1066-1069, July 2018

Chat Response Generation Based on Semantic Prediction Using Distributed Representations of Words

Kazuaki Furumai, Tetsuya Takiguchi, Yasuo Arikawa, International Workshop on Spoken Dialog System Technology (IWSDS), 6 pages, May 2018

Debate Dialog for News Question Answering System 'NetTv' -Debate Based on Claim and Reason Estimation-

Rikito Marumoto, Katsuyuki Tanaka, Tetsuya Takiguchi, Yasuo Arikawa, International Workshop on Spoken Dialog System Technology (IWSDS), 8 pages, May 2018

Parallel-Data-Free Dictionary Learning for Voice Conversion Using Non-Negative Tucker Decomposition

Yuki Takashima, Hajime Yano, Toru Nakashika, Tetsuya Takiguchi, Yasuo Arikawa, ICASSP, pp. 5294-5298, April 2018

(大石)

(梶川)

An evaluation method for uncertainties in regional climate projections, Adachi. A. S., S. Nishizawa, K. Ando, R. Yoshida, T. Yamaura, R. Yoshida, H. Yashiro, Y. Kajikawa and H. Tomita, Atmos. Sci. Lett, Doi: 10.1002/asl.877, 2018

Maintenance condition of back - building squall - line in a numerical simulation of a heavy rainfall event in July 2010 in Western Japan, Yoshida. R., S. Nishizawa, H. Yashiro, S. A. Adachi, T. Yamaura, H. Tomita, and Y. Kajikawa, 2018: Atmos. Sci. Lett, Doi:10.1002/asl.880, 2018

(小林)

洪水氾濫シミュレーションにおいて風の影響を考慮する必要性に関する検討,
小林健一郎・中山恵介・田中翔・阪口詩乃・奥勇一郎・池内幸司, 土木学会論文集 B1(水工学)
Vol.74, No.5, I_1459-I_1464, 2018

浅水流方程式・局所慣性方程式の精度検証と最適空間解像度に関する検討,
小林健一郎・中山恵介・阪口詩乃, 土木学会論文集 B1(水工学) Vol.74, No.5, I_1513-I_1518, 2018

貯水池底層における貧酸素水塊発生機構の解明,
山元幸之助・中山恵介・藤井智康・藤原建紀・清水武俊・小林健一郎, 土木学会論文集 B1(水工学) Vol.74, No.5, I_535-I_540, 2018

Ensemble flood simulation for a small dam catchment in Japan using nonhydrostatic model rainfalls. Part 2: Flood forecasting using 1600 member 4D-EnVAR predicted rainfalls,
Kobayashi, K., Apip, Duc, L., Oizumi, T., and Saito, K., Nat. Hazards Earth Syst. Sci. Discuss., <https://doi.org/10.5194/nhess-2018-343>, in review, 2019. (公開査読中であるが, 2019 年 6 月 16 日までに最終稿を投稿する段階)

(吉田)

(小川)

(岩田)

エイズ診療拠点病院の現状と展望.

岩田健太郎, 土井朝子, 日笠 聡, 日本エイズ学会誌 (1344-9478)20 巻 3 Page179-185(2018.08)

Mycotic aneurysm caused by Edwardsiella tarda successfully treated with stenting and suppressive antibiotic therapy: a case report and systematic review.

Kei Furui Ebisawa, Sho Nishimura, Shungo Yamamoyo, Goh Ohji, and Kentaro Iwata
Ann Clin Microbiol Antimicrob. 2018. May 10 Vol:17 No.1 Page:21 doi: 10.1186/s12941-018-0273-x.
Review.

Acute tubulointerstitial nephritis caused by rifampicin: An increasing and often overlooked side effect in elderly patients

Manabu Nagata, Goh Ohji, and Kentaro Iwata, Int J Clin Pharmacol Ther. 2019 Feb 10 doi: 10.5414/CP203287. [Epub ahead of print]

(大路)

Acute tubulointerstitial nephritis caused by rifampicin: An increasing and often overlooked side effect in elderly patients.

Nagata M, Ohji G, Iwata K., Int J Clin Pharmacol Ther., 2019 Feb 10. [Epub ahead of print]

Mycotic aneurysm caused by Edwardsiella tarda successfully treated with stenting and suppressive antibiotic therapy: a case report and systematic review.

Ebisawa KF, Nishimura S, Yamamoto S, Ohji G, Iwata K. Ann Clin Microbiol Antimicrob 10;17(1):21. 2018 May

Long-term efficacy of comprehensive multidisciplinary antibiotic stewardship programs centered on weekly prospective audit and feedback.

Kimura T, Uda A, Sakaue T, Yamashita K, Nishioka T, Nishimura S, Ebisawa K, Nagata M, Ohji G, Nakamura T, Koike C, Kusuki M, Ioroi T, Mukai A, Abe Y, Yoshida H, Hirai M, Arakawa S, Yano I, Iwata K, Tokimatsu I. *Infection.*;46(2):215-224. 2018 Apr

15.4 学術報告

(吉岡)

南九州におけるフィリピン海プレートの沈み込みに伴う2次元温度構造モデリング, 吉岡 祥一・末永 伸明・松本 拓己・季 穎鋒, 東農地震科学研究所報告, 40, 125-141, 2018

津波地震の津波数値シミュレーション, 中村 嘉孝・吉岡 祥一・末永 伸明・馬場 俊孝, 神戸大学都市安全研究センター 研究報告, 第22号, 1-19, 2018

(廣瀬)

スロースリップイベントによる応力時間変化の計算: 房総半島スロースリップイベントへの適用と地震活動との対比, 廣瀬仁, 松澤孝紀, 神戸大学都市安全研究センター研究報告, 22号, 20-25, 2018.

(長尾)

サイト増幅特性のばらつきを考慮した強震動のばらつきの評価, 福島康宏, 長尾 毅, 都市安全研究センター研究報告, 2018

(北後)

平成30年7月豪雨アルミ工場爆発後の避難状況調査, 荒木裕子, ピニエイロ アベウ タイチコンノ, 北後明彦, 日本災害情報学会第20回学会大会, 2018.10

Feedback Process of Evacuation Plan Using Quantitative Data of Drills: A Tsunami Evacuation Support System for Vulnerable People in a Community, Nobuhito OHTSU, Akihiko HOKUGO, Abel Táiti Konno PINHEIRO, 9th Conference of the International Society for Integrated Disaster Risk Management (IDRiM 2018), 2018.10

AN OVERLOOK ON THE CURRENT STATE OF RECONSTRUCTION IN NEPAL, Tara Nidhi Lohani, Akihiko Hokugo, Ryousuke Aota, 都市安全研究センター研究報告, 第22号, pp. 45-50, 2018

DISASTER RECOVERY: RESILIENCE VERSUS VULNERABILITY, Zhila Pooyan, Akihiko Hokugo, 都市安全研究センター研究報告, 第22号, pp. 51-56, 2018

(藤永)

鋼断面への初期軸力が角形 CFT 柱の曲げ耐力に及ぼす影響, 藤永隆: 神戸大学都市安全研究センター研究報告, 第22号, pp.57-62, 2018年3月

充填被覆型鋼管コンクリート長柱の耐力, 金田航平, 藤永隆, 孫玉平: 神戸大学都市安全研究センター研究報告, 第22号, pp.63-68, 2018年3月

(滝口)

議論システムにおける賛成／反対意見の生成手法の検討, 古舞 千暁, 有木 康雄, 滝口 哲也,

人工知能学会 言語・音声理解と対話処理研究会, pp. 82-83, 2018.

ユーザーの発話意図理解に基づくインタビュー発話の生成に向けて, 松好 祐紀, 滝口 哲也, 有木 康雄, 人工知能学会 言語・音声理解と対話処理研究会, pp. 84-85, 2018.

Attention-based LSTM を用いた意図理解とキーワード抽出の統合による質問応答システム, 松好祐紀, 滝口 哲也, 有木康雄, 電子情報通信学会技術研究報告, Vol. 118, No. 198, pp. 9-14, 2018.

映像中の物体振動モードを利用した音源復元, 布施 陽平, 安見 祐亮, 滝口 哲也, 電子情報通信学会技術研究報告, Vol. 118, No. 112, pp. 19-24, 2018.

(大石)

Estimating the Volcanic Ash Fall Rate from the Mount Sinabung Eruption on February 19, 2018 Using Weather Radar, Magfira Syarifuddin, Satoru Oishi, Ratih Indri Hapsari, Jiro Shiokawa, Hanggar Ganara Mawandha, Masato Iguchi, Journal of Disaster Research, Vol.14 No.1, pp.135-150, 2019,,2019.2.6

Ground Observation of Tephra Particles: On the Use of Weather Radar for Estimating Volcanic Ash Distribution, Ratih Indri Hapsari, Masahiro Iida, Masahide Muranishi, Mariko Ogawa, Magfira Syarifuddin, Masato Iguchi, Satoru Oishi, Journal of Disaster Research, Vol.14 No.1, pp.151-159, 2019,,2019.2.6

SPATIOTEMPORAL DISTRIBUTION OF RAINFALL IN MOUNT SAKURAJIMA BASED ON WEATHER RADAR, Magfira SYARIFUDDIN, Satoru OISHI, Haruhisa NAKAMICHI, Masato IGUCHI, Journal of Japan Society of Civil Engineers, Ser. B1(Hydraulic Engineering), , Vol.75, No.4,, 2018,,2018.11.1

REAL-TIME RADAR QUANTITATIVE PRECIPITATION ESTIMATION USING MULTIVARIATE PROJECTION MODEL, Hanggar Ganara MAWANDHA, Satoru OISHI, Journal of Japan Society of Civil Engineers, Ser. B1(Hydraulic Engineering), , Vol.75, No.4,, 2018,,2018.11.1

Rainfall Information System Based on Weather Radar for Debris Flow Disaster Mitigation, Ratih Indri Hapsari, Gerard Aponno, Rosa Andrie Asmara Satoru Oishi, International Journal of Engineering & Technology, 7 (4.44) (2018) 165-171,,2019.2.19

Improving Spatial Rainfall Estimates at Mt. Merapi Area Using Radar-Rain Gauge Conditional Merging, Roby Hambali, Djoko Legono, Rachmad Jayadi, and Satoru Oishi, Journal of Disaster Research, Vol.14 No.1, pp.69-79, 2019,,2019.2.6

AN IMPROVEMENT OF A MATHEMATICAL INTERPRETATION OF MOVING PARTICLE SEMI-IMPLICIT METHOD, Jian CHEN, Muneco HORI, Hideyuki O-TANI, Satoru OISHI, Journal of Japan Society of Civil Engineers, Ser. A2 (Applied Mechanics), Vol. 73, No. 2 (Journal of Applied Mechanics, Vol. 20), 2018,,2018.12.26

水-土砂の流出氾濫結合モデルの構築と HPC による朝倉市杷木地区への適用,土木学会論文集, 山野井一輝・大谷英之・陳健・大石哲・堀宗朗, Ser. B1(水工学), Vol.75, No.4,, 2018,,2018.11.1

X バンドマルチパラメータレーダーによる甲府盆地の降水に関する研究, 佐野哲也, 大石哲, 砂田憲吾, 気象研究ノート 第 237 号「気象レーダー60年の歩みと将来展望」, 3.6 章 pp122-129, 2018,,2018.7.1

小型 X バンド気象レーダーによるマルチレーダーシステム, 高木敏明, 武地美明, 大石哲, 中北英一, 気象研究ノート 第 237 号「気象レーダー60年の歩みと将来展望」, 1.4 章 pp32-37,

2018,,2018.7.1

盆地周囲の山岳斜面での降雨強化機構と盆地内で出現する下記の短時間大雨の出現前の地上気象場の解析, 佐野哲也・砂田憲吾・大石哲・中村高志・末続忠司, 気象研究ノート第 236 号「都市における極端気象の観測・予測・情報伝達」, pp.138-154, 気象学会, 138-154, 2018.5.30

Observational Study on Formation of a Localized Rainfall on a Basin with Heat and Aridity on Days of Weak Synoptic Disturbance in Summer, Tetsuya SANO and Satoru OISHI, Journal of the Meteorological Society of Japan, Vol.96A, pp.95-117, DOI:10.2151/jmsj.2018-012, 2018, pp.95-117, 2018.5.21

ビデオゾンデで測定された上空の雨滴に対する 捕捉効率に関する研究, 土木学会論文集, 小川まり子・大石哲・鈴木賢士・中川勝広・山口弘誠・中北英一, Ser. B1(水工学), Vol.74, No.4,, 2018, I_49-I_54, 2018.3.1

(梶川)

(小林)

(吉田)

(小川)

(岩田)

感染症/血液疾患 岩田健太郎, 第 69 回日本東洋医学会学術総会、感染症専門医の役割, 神緑会平成 30 年度学術講演会、エビデンスに基づいたワクチン接種のために, 第 9 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会、外国の感染対策, 第 34 回日本環境感染学会総会教育講演、歯科における抗菌薬, 第 28 回日本有病者歯科医療学会学術大会

(大路)

プライマリケア領域における梅毒診療, 大路 剛, 第88回日本感染症学会西日本地方会学術集会・第61回日本感染症学会中日本地方会学術集会・第66回日本化学療法学会西日本支部総会合同学会

15.5 学術講演

(飯塚)

海底地盤の原位置強度推定方法に関する解析的検討, 杉山友理, 飯塚敦, C-06, 第 53 回地盤工学研究発表会 (高松), pp.211-212, 2018 年 7 月

Bjerrum の仮説に基づいた年代効果による疑似過圧密粘性土の圧密降伏応力の試算, 齋藤禎二郎, 飯塚敦, 北村晃寿, 太田秀樹, D-05, 第 53 回地盤工学研究発表会 (高松), pp.757-758, 2018 年 7 月

Nonlinearity and Uncertainty of Geotechnical Finite Element Analysis, Hajime ITO, William Cheang, Hideki OHTA, Atsushi IIZUKA, E-02, 第 53 回地盤工学研究発表会 (高松), 793-794, 2018 年 7 月

(橘・飯塚)

除荷過程における地盤材料の塑性軟化特性を考慮した弾塑性構成モデルの提案, 伊藤真司, 橘伸也, 飯塚敦, 第 53 回地盤工学研究発表会講演集 (高松), pp. 365-366, 2018 年 7 月 24-26 日.

デコルマ帯における変質を考慮したせん断シミュレーション, 前川慎太郎, 麻生勇人, 飯塚敦, 橘伸也, 竹山智英, 杉山友理, 第 53 回地盤工学研究発表会講演集 (高松), pp. 345-346, 2018 年 7 月 24-26 日.

分離型解法を用いた土／水連成問題の検討, 北野井智希, 竹山智英, 飯塚敦, 橘伸也, 第 53 回地盤工学研究発表会講演集 (高松), pp. 1737-1738, 2018 年 7 月 24-26 日.

東京海拔ゼロメートル地帯における地下水位変動に伴う液化化リスク, 本田和也, 竹山智英, 橘伸也, 飯塚敦, 第 53 回地盤工学研究発表会講演集 (高松), pp. 1879-1880, 2018 年 7 月 24-26 日.

不飽和土の弾塑性構成モデルにおける硬化則に関するパラメータの推定手法, 松本昌祥, 豊香都樹, 橘伸也, 飯塚敦, 佐藤毅, 第 53 回地盤工学研究発表会講演集 (高松), pp. 699-700, 2018 年 7 月 24-26 日.

地層処分における再冠水から超長期変質過程の力学-水理-化学連成解析, 酒井城, 伊藤真司, 橘伸也, 飯塚敦, 林大介, 高沢真由美, 小林一三, 第 53 回地盤工学研究発表会講演集 (高松), pp. 741-742, 2018 年 7 月 24-26 日.

(橘)

Confining tie rods in confined-reinforced earth method to reduce differential settlement
Hung, H.M., Kuwano, J. and Tachibana, S. Proc. of the 11th International Conference on Geosynthetics (11ICG), Seoul, Korea, September 16-21, 2018.

(吉岡)

3D Rheology effects on postseismic viscoelastic surface displacement fields in subduction zones, Yuval Banay, Shoichi Yoshioka and Yingfeng Ji, 日本地球惑星科学連合 2018 年大会, SSS09-P06, 千葉, 2018

GNSS データを用いた日本列島の歪速度場の時空間変化, 秋山 峻寛・吉岡 祥一・田中 もも, 日本地球惑星科学連合 2018 年大会, SSS09-P08, 千葉, 2018

Spatial distribution of long-term slow slip events beneath the Bungo Channel under sparsity constraints (II), Ryoko Nakata, Hideitsu Hino, Tatsu Kuwatani, Momo Tanaka, Shoichi Yoshioka, Masato Okada and Takane Hori, 日本地球惑星科学連合 2018 年大会, SCG53-07, 千葉, 2018

Postseismic displacement field associated with the 2011 Tohoku-oki earthquake by temperature dependent viscosity model, Yuval Banay, Shoichi Yoshioka, Momo Tanaka and Yingfeng Ji, 日本地球惑星科学連合 2018 年大会, SCG57-P11, 千葉, 2018

Geodetic Data Inversion for Spatial Distribution of Long-term Slow Slip Events Beneath the Bungo Channel, Southwest Japan, Using Sparse Modelling, Ryoko Nakata, Hideitsu Hino, Tatsu Kuwatani, Shoichi Yoshioka, Masato Okada and Takane Hori, AOGS 15th Annual Meeting, IG08-A010, Honolulu, Hawaii, 2018

Discussion based on spatial distribution of long-term slow slip events beneath the Bungo Channel, Ryoko Nakata, Hideitsu Hino, Tatsu Kuwatani, Shoichi Yoshioka, Masato Okada and Takane Hori, International Joint Workshop on Slow Earthquakes 2018, P36, 福岡, 2018

Spatiotemporal Distributions of Interplate Coupling and Aseismic Slips Prior to the 2011 Tohoku-Oki Earthquake Inferred From GNSS Data, Momo Tanaka and Shoichi Yoshioka, 10th ACES International Workshop, O13-2, 南あわじ, 2018

Seismogenesis of Double Subduction Beneath Kanto, Central Japan Controlled by Fluid Release, Shoichi Yoshioka, Yingfeng Ji, Vlad C. Manea and Marina Manea, 10th ACES International Workshop, O14-3, 南あわじ, 2018

東北地方太平洋沖地震前 15 年間の地殻変動から推定したプレート間の固着・非地震性すべりの時空間分布, 田中 もも・吉岡 祥一, 日本地震学会 2018 年度秋季大会, S03-P08, 郡山, 2018

東北地方太平洋域地震の隣接地域における想定海溝型巨大地震に伴う津波の数値シミュレーション, 長田 史應・吉岡 祥一・馬場 俊孝, 日本地震学会 2018 年度秋季大会, S16-P07, 郡山, 2018

Three-dimensional thermal modeling associated with subduction of the Cocos plate beneath southern Mexico, and its relation to the occurrence of interplate seismic events, Shoichi Yoshioka, JST-JICA-UNAM Workshop for the Mid-term Evaluation, , CDMX, México, 2018

Seismogenesis of dual subduction beneath Kanto, central Japan controlled by fluid release, Shoichi Yoshioka, Yingfeng Ji, Vlad C. Manea, Marina Manea, AGU Fall Meeting 2018, T21B-08, Washington, D.C., 2018

Spatiotemporal locking state on the plate interface prior to the 2011 Tohoku-Oki earthquake inverted from GNSS data, Momo Tanaka, Shoichi Yoshioka, AGU Fall Meeting 2018, G23B-0602, Washington, D.C., 2018

(廣瀬)

A comparison of the stress evolutions due to Boso slow slip events and the accompanying earthquake swarms, Hitoshi Hirose, Kouta Nakano, Takanori Matsuzawa, JpGU Meeting 2018 (千葉), SCG53-P14, 平成 30 年 5 月 20 日～平成 30 年 5 月 24 日, 2018

Slip inversion based on tilt change data for short-term slow slip events in western Shikoku, southwest Japan, Wakako Tamura, Hitoshi Hirose, Takeshi Kimura, JpGU Meeting 2018 (千葉), SCG53-P13, 平成 30 年 5 月 20 日～平成 30 年 5 月 24 日, 2018

A small slow slip event in Bungo Channel from December 2015 to March 2016 detected by a GNSS observation network, Hitoshi Hirose, Takeshi Matsushima, Takao Tabei, Takuya Nishimura, International Joint Workshop on Slow Earthquakes 2018 (福岡), P21, 平成 30 年 9 月 21 日～平成 30 年 9 月 23 日, 2018

Slip distributions based on tilt change data for short-term slow slip events in western Shikoku, southwest Japan, Wakako Tamura, Takeshi Kimura, Hitoshi Hirose, International Joint Workshop on Slow Earthquakes 2018 (福岡), P22, 平成 30 年 9 月 21 日～平成 30 年 9 月 23 日, 2018

豊後水道 GNSS 観測網で捉えた 2015 年 12 月～2016 年 3 月頃の小規模なスロースリップイベント, 廣瀬仁, 松島健, 田部井隆雄, 西村卓也, 日本地震学会 2018 年秋季大会(郡山), S23-P07, 平成 30 年 10 月 9 日～平成 30 年 10 月 11 日, 2018

A small slow slip event in Bungo Channel from December 2015 to March 2016 detected by a GNSS observation network, Hitoshi Hirose, Takeshi Matsushima, Takao Tabei, Takuya Nishimura, AGU Fall Meeting 2018, T33E-0457, 平成 30 年 12 月 10 日～平成 30 年 12 月 14 日, 2018

Slip distributions based on tilt change data for short-term slow slip events in western Shikoku, southwest Japan, Wakako Tamura, Takeshi Kimura, Hitoshi Hirose, AGU Fall Meeting 2018, T33E-0458, 平成 30 年 12 月 10 日～平成 30 年 12 月 14 日, 2018

(長尾)

控え直杭式矢板式岸壁における控え杭の地震時の変形メカニズムに関する研究, 宮下健一郎, 長尾 毅, 第 53 回地盤工学研究発表会, 2018

非線形地震応答解析による 2016 年熊本地震における益城町の地盤震動評価, 中田遼介, 長尾 毅, 土木学会関西支部年次学術講演会, 2018

「どこにでも起こりうる直下地震」による漁港施設の地震動設定について, 福島康宏, 長尾 毅, 土木学会年次学術講演会, 2018

サイト増幅特性のばらつきを考慮した強震動のばらつき, 福島康宏, 長尾 毅, 第 38 回地震工学研究発表会, 2018

サイト増幅特性のばらつきを考慮した強震動のばらつきに関する検討, 福島康宏, 長尾 毅, 第 15 回日本地震工学シンポジウム, 2018

(北後)

災害時の病院における火災対応, 北後明彦, 防災学術連携体 特別セッション, 第 24 回日本災害医学会総会・学術集会, 2019.3

浸水を背景とする総社市アルミ工場爆発・火災の被害と周辺での避難状況, 北後明彦, 講演討論会「水害と火災 ～浸水火災にどう備えるか～」, 日本火災学会, 2019.1

地域の災害からの実効性のある安全確保の考え方～不確実性の克服のための予防的措置としての「予防的避難」～, 北後明彦, 第 239 回神戸大学 RCUSS オープンゼミナール, 2018.11

Effectiveness of early warning and community cooperation for evacuation preparedness from mega-risk type coastal hazard in childcare centers, Abel Táiti Konno Pinheiro, Hokugo Akihiko, 8th International Conference on Building Resilience, ISCTE, University Institute of Lisbon, 2018.11

Designing inclusive disaster risk reduction in hyperaging society: assistive technologies to enhance community-based disaster preparedness, Akihiko Hokugo, Nobuhito Ohtsu, Abel Táiti Konno Pinheiro, The 9th Kobe University Brussels European Centre Symposium, Smart Cities, Secure Societies: Breakthroughs in EU and Japan Research Cooperation, 2018.10

浸水を背景とするアルミニウム工場の爆発と周辺地域の被害, 日本学術会議公開シンポジウム・防災学術連携体 西日本豪雨災害の緊急報告会, 2018.9

Challenges in The Process of Considering Tsunami Safety in The Stage of Reconstruction Planning, Yuko ARAKI, Akihiko HOKUGO, Global Conference on the International Network for Disaster Studies in IWATE, 2018.7

COMMUNITY PARTICIPATION IN DISASTER RISK REDUCTION: A STUDY FOCUSING ON CYCLONE PREPAREDNESS PROGRAM IN BANGLADESH AND A COMPARATIVE STUDY OF SYOBO-DAN AND CPP VOLUNTEERS ACTIVITIES IN DISASTER RESPONSE, Swarnali CHAKMA, Akihiko HOKUGO, INDS-IWATE (Global Conference on the International Network for Disaster Studies in IWATE, 2018.7

ADAPTATION TO LANDSLIDES IN CHITTAGONG HILL TRACTS IN BANGLADESH, Sadia Tasnim, Akihiko Hokugo, Global Conference on the International Network for Disaster Studies in IWATE, 2018.7

西日本豪雨における避難状況の分析と課題, 北後明彦, プロジェクト「減災・復興政策に関する研究」2018年度第1回研究会, 神戸大学社会システムイノベーションセンター主催, 2018.9
かけがえのない命、まちをまもる 津山市城東地区で想定される災害・被害と地区防災上の課題・「災害からの安全に関するアンケート」結果, 北後明彦, 津山市城東地区防災ワークショップ, 2019.6

要配慮者利用施設における避難確保計画作成のポイント, 北後明彦, 第233回神戸大学RCUSSオープンゼミナール, 2018.5

地域における津波時の避難誘導のあり方ー東日本大震災での経験から考えるー, 北後明彦, 第232回神戸大学RCUSSオープンゼミナール, 2018.4

(藤永)

正方形 CFT 柱のせん断耐力に関する一考察, 藤永隆, 2018 年度日本建築学会大会 (東北), 2018 年 9 月

鋼断面への初期軸力が角形 CFT 柱の曲げ耐力に及ぼす影響, 市川元気, 藤永隆, 孫玉平, 2018 年度日本建築学会大会 (東北), 2018 年 9 月

梁貫通形式角形 CFT 柱梁接合 部に関する実験的研究 (その 1) 十字型試験体, 村田瑞穂, 藤永隆, 2018 年度日本建築学会大会 (東北), 2018 年 9 月

(滝口)

ゼロショット学習を用いた一般物体セグメンテーション, 谷田 啓一, Tristan Hascoet, 滝口 哲也, 有木 康雄, 情報処理学会第 81 回全国大会講演論文集 (福岡), 2V-07, pp. 549-550, 平成 31 年 3 月 14 日 (木) ~ 平成 31 年 3 月 16 日 (土), 2019.

Affinity graph を用いた神経細胞画像セグメンテーション, 小山詠未, Tristan Hascoet, 滝口 哲也, 有木 康雄, 情報処理学会第 81 回全国大会講演論文集 (福岡), 2V-04, pp. 543-544, 平成 31 年 3 月 14 日 (木) ~ 平成 31 年 3 月 16 日 (土), 2019.

音声明瞭度に関連した脳磁界反応の時空間特微量, 嵯峨 直樹, 矢野 肇, 滝口 哲也, 添田 喜治, 中川 誠司, 日本音響学会 2019 年春季研究発表会講演論文集 (東京), 3-P-43, pp. 549-552, 平成 31 年 3 月 5 日 (火) ~ 平成 31 年 3 月 7 日 (木), 2019.

脳磁界計測を用いた聴感印象推定の試みー比較判断の重み付けによる精度向上の検討ー, 矢野 肇, 滝口 哲也, 神谷 勝, 中川 誠司, 日本音響学会 2019 年春季研究発表会講演論文集 (東京), 3-P-21, pp. 499-502, 平成 31 年 3 月 5 日 (火) ~ 平成 31 年 3 月 7 日 (木), 2019.

ユーザーの発話意図理解に基づくインタビュー発話の生成, 松好 祐紀, 滝口 哲也, 有木 康雄, 日本音響学会 2019 年春季研究発表会講演論文集 (東京), 2-P-6, pp. 963-966, 平成 31 年 3 月 5 日 (火) ~ 平成 31 年 3 月 7 日 (木), 2019.

マルチタスク学習による雑談対話システムへの知識付与, 麻生 大聖, 滝口 哲也, 有木 康雄, 日本音響学会 2019 年春季研究発表会講演論文集 (東京), 2-P-5, pp. 961-962, 平成 31 年 3 月 5 日 (火) ~ 平成 31 年 3 月 7 日 (木), 2019.

議論システムにおける言語モデルを用いた賛成／反対意見の自動生成手法の検討, 古舞 千暁, 滝口 哲也, 有木 康雄, 日本音響学会 2019 年春季研究発表会講演論文集 (東京), 2-P-4, pp. 957-960, 平成 31 年 3 月 5 日 (火) ~ 平成 31 年 3 月 7 日 (木), 2019.

複数データベースを使用した end-to-end 構音障害者音声認識, 高島 悠樹, 滝口 哲也, 有木 康雄, 日本音響学会 2019 年春季研究発表会講演論文集 (東京), 2-9-4, pp. 869-872, 平成 31 年 3 月 5 日 (火) ~平成 31 年 3 月 7 日 (木), 2019.

Speech Prosody Conversion using Sequence Generative Adversarial Nets with Continuous Wavelet Transform F0 features, Zhaojie Luo, Tetsuya Takiguchi, Yasuo Ariki, 日本音響学会 2019 年春季研究発表会講演論文集 (東京), 1-P-35, pp. 1125-1128, 平成 31 年 3 月 5 日 (火) ~平成 31 年 3 月 7 日 (木), 2019.

音響特徴量補正による構音障害者を対象とした DNN 音声合成, 北村 毅, 滝口 哲也, 日本音響学会 2019 年春季研究発表会講演論文集 (東京), 1-P-24, pp. 1095-1098, 平成 31 年 3 月 5 日 (火) ~平成 31 年 3 月 7 日 (木), 2019.

深層学習を用いた歌声合成の検討, 片平 健太, 北村 毅, 足立 優司, 田井 清登, 滝口 哲也, 日本音響学会 2019 年春季研究発表会講演論文集 (東京), 1-P-22, pp. 1091-1092, 平成 31 年 3 月 5 日 (火) ~平成 31 年 3 月 7 日 (木), 2019.

Multilinear Discriminant Analysis を用いた聴感印象推定のための脳活動特徴量抽出, 矢野 肇, 滝口 哲也, 有木 康雄, 神谷 勝, 中川 誠司, 日本音響学会 2018 年秋季研究発表会講演論文集 (大分), 1-Q-3, pp. 381-384, 平成 30 年 9 月 12 日 (水) ~平成 30 年 9 月 14 日 (金), 2018.

音声明瞭度に関連した脳磁界反応: 聴覚野および知覚性言語野の活動解析, 嵯峨 直樹, 矢野 肇, 滝口 哲也, 添田 喜治, 中川 誠司, 日本音響学会 2018 年秋季研究発表会講演論文集 (大分), 1-Q-44, pp. 485-488, 平成 30 年 9 月 12 日 (水) ~平成 30 年 9 月 14 日 (金), 2018.

議論システムにおける賛成/反対意見の生成のための発話のベクトル化手法の検討, 古舞 千暁, 滝口 哲也, 有木 康雄, 日本音響学会 2018 年秋季研究発表会講演論文集 (大分), 1-R-29, pp. 1033-1036, 平成 30 年 9 月 12 日 (水) ~平成 30 年 9 月 14 日 (金), 2018.

CycleGAN に基づくノンパラレル声質変換を用いた構音障害者音声合成, 南坂 竜翔, 滝口 哲也, 有木 康雄, 日本音響学会 2018 年秋季研究発表会講演論文集 (大分), 1-R-41, pp. 1185-1188, 平成 30 年 9 月 12 日 (水) ~平成 30 年 9 月 14 日 (金), 2018.

Neutral-to-Emotional Voice Conversion with Latent Representations of F0 using Generative Adversarial Networks, 羅 兆傑, 滝口 哲也, 有木 康雄, 日本音響学会 2018 年秋季研究発表会講演論文集 (大分), 1-R-43, pp. 1191-1194, 平成 30 年 9 月 12 日 (水) ~平成 30 年 9 月 14 日 (金), 2018.

深層学習を用いた歌声音声の帯域強調の検討, 北村 毅, 足立 優司, 田井 清登, 滝口 哲也, 日本音響学会 2018 年秋季研究発表会講演論文集 (大分), 1-R-46, pp. 1201-1204, 平成 30 年 9 月 12 日 (水) ~平成 30 年 9 月 14 日 (金), 2018.

非負値行列因子分解に基づく構音障害者音声の高域付加の検討, 高島 悠樹, 滝口 哲也, 有木 康雄, 日本音響学会 2018 年秋季研究発表会講演論文集 (大分), 2-5-5, pp. 1309-1312, 平成 30 年 9 月 12 日 (水) ~平成 30 年 9 月 14 日 (金), 2018.

脳磁界データの空間的特徴を考慮した想起音声の識別, 矢野 彩緒里, 滝口 哲也, 有木 康雄, 添田 喜治, 中川 誠司, 日本音響学会 2018 年秋季研究発表会講演論文集 (大分), 2-P-38, pp. 885-888, 平成 30 年 9 月 12 日 (水) ~平成 30 年 9 月 14 日 (金), 2018.

ハイスピードカメラ画像を用いた唇動画像からの音声生成, 高島悠樹, 滝口 哲也, 有木 康雄,

第 21 回画像の認識・理解シンポジウム, PS1-65, 2 pages, 平成 30 年 8 月 5 日 (日) ~平成 30 年 8 月 8 日 (水), 2018.

物体振動を用いた畳み込みニューラルネットワークによる音源復元, 布施 陽平, 滝口 哲也, 有木 康雄, 第 21 回画像の認識・理解シンポジウム, PS1-69, 3 pages, 平成 30 年 8 月 5 日 (日) ~平成 30 年 8 月 8 日 (水), 2018.

Knowledge graph embeddings for Zero-Shot Learning, Tristan Hascoet, Yasuo Ariki, Tetsuya Takiguchi, 第 21 回画像の認識・理解シンポジウム, PS3-23, 4 pages, 平成 30 年 8 月 5 日 (日) ~平成 30 年 8 月 8 日 (水), 2018.

(大石)

Radar-Derived Quantitative Precipitation Estimation based on Vertical-Raincloud Trajectory Profiles, Hanggar Ganara MAWANDHA and Oishi, S., European Radar in Meteorology and Hydrology, 2018.7.1

Study on Particle Size Distribution and Volume Estimation of Ice Particles in Cumulus by Electromagnetic Wave Scattering Analysis of Dual Frequency MP Radar, Ogawa, M., Sato, T., Oishi, S., Asia Oceania Geosciences Society(AOGS) 15th Annual Meeting 2018

A Study on Evaluation of Collection Efficiencies for Raindrops Captured by Videosondes in Clouds, Ogawa, M., Oishi, S., Suzuki, K., Nakagawa, K., Yamaguchi, K., Nakakita, E., Asia Oceania Geosciences Society(AOGS) 15th Annual Meeting 2018.

A Study on Utilization of GNSS for Rainfall Prediction, Kishimoto, M., Ogawa, M., Oishi, S., Asia Oceania Geosciences Society(AOGS) 15th Annual Meeting 2018

A Study on Estimation of Vorticity Using Three-Dimensional Variational Method, Okawa, K., Ogawa, M., Oishi, S., Asia Oceania Geosciences Society(AOGS) 15th Annual Meeting 2018.

地域にカスタマイズされた土砂災害危険度提供システムに関する研究, 大石哲・小川まり子・佐和田光平・野中沙樹・阿波田康裕, 水文・水資源学会 2018 年度総会・研究発表会, 2018.9.12-14

FDPS を用いた SPH 法による斜面崩壊シミュレーションに関する基礎研究, 野中沙樹・大石哲・竹山智英・陳健, 第 21 回応用力学シンポジウム 2018.5.20

(梶川)

Global high-resolution Atmospheric simulations using the K computer, Kajikawa, Y., International Workshop on Economics of Disaster, Kobe, February 26, 2018.

Different role of SST over the South China Sea and Philippine sea on South China Sea Summer Monsoon Onset, Kajikawa, Y., and A. Higuchi, AOGS 15th Annual meeting, Honolulu, Hawaii, June 03-08, 2018.

Factor analysis in downscaled regional climate change, Kajikawa, Y., K. Ando, S. A. Adachi, S. Nishizawa, and T. Yamaura, AOGS 15th Annual meeting, Honolulu, Hawaii, June 03-08, 2018.

Global high-resolution Atmospheric simulations using the K computer, Kajikawa, Y., 2nd international Complex Fluid and Th

(小林)

兵庫県都賀川における豪雨時の山地降雨の河川流出への寄与度に関する基礎的検討, 小林健一郎, 川崎遼, 藤田一郎, 中山恵介, 平成 30 年度全国大会第 73 回年次学術講演会 (北海道), 平成 30 年 8 月 29 日~31 日, 2018

(吉田)

(小川)

(岩田)

感染症/血液疾患, 岩田健太郎, 第 69 回日本東洋医学会学術総会

感染症専門医の役割, 岩田健太郎, 神緑会平成 30 年度学術講演会

エビデンスに基づいたワクチン接種のために, 岩田健太郎, 第 9 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会

外国の感染対策, 岩田健太郎, 第 34 回日本環境感染学会総会教育講演、

歯科における抗菌薬, 岩田健太郎, 第 28 回日本有病者歯科医療学会学術大会

(大路)

プライマリケア領域における梅毒診療, 大路 剛, 第 88 回日本感染症学会西日本地方会学術集会・第 61 回日本感染症学会中日本地方会学術集会・第 66 回日本化学療法学会西日本支部総会 合同学会

16. 研究指導

16.1 博士論文

なし

16.2 修士論文

リスク・アセスメント研究部門

SPH法を用いた盛土崩壊の原因分析と対策の検討, 上野山裕己, 工学研究科市民工学専攻, 修士(工学), 主査: 竹山智英, 副査: 飯塚敦

深海底プレート境界デコルマ帯を想定した過圧密化の発現, 上原拓真, 工学研究科市民工学専攻, 修士(工学), 主査: 飯塚敦, 副査: 橘伸也

先行効果を考慮した弾・粘塑性構成モデルによる液状化解析, 田中直人, 工学研究科市民工学専攻, 修士(工学), 主査: 竹山智英, 副査: 飯塚敦

土／水連成解析の分離型解法における収束性について, 長浦崇晃, 工学研究科市民工学専攻, 修士(工学), 主査: 飯塚敦, 副査: 竹山智英

不飽和土の締固め曲線と硬化則の関連性, 松本昌祥, 工学研究科市民工学専攻, 修士(工学), 主査: 飯塚敦, 副査: 橘伸也

2016 年鳥取県中部地震の動的断層モデルの構築の試み, 佐藤 圭介, 神戸大学大学院理学研究科惑星学専攻(吉岡)

2011 年東北地方太平洋沖地震 15 年間のプレート境界における固着の時空間分布, 田中 もも, 神戸大学大学院理学研究科惑星学専攻(吉岡)

Estimation of the spatiotemporal distribution of fault locking and afterslip associated with the 2011 Tohoku-Oki earthquake according to a 3D temperature and stress fields dependent heterogeneous viscosity viscoelastic relaxation model over a 7-year period, Yuval Banay, 神戸大学大学院理学研究科惑星学専攻(吉岡)

(廣瀬)

四国西部で繰り返し発生する短期的スローリップイベントのすべり分布 -傾斜データのインバージョン-, 田村和華子, 神戸大学大学院理学研究科惑星学専攻

リスク・マネジメント研究部門

住宅市街地における高齢化社会対応型地区防災計画に関する研究, 佐野旭, 神戸大学大学院工学研究科建築学専攻(北後)

要配慮者利用施設における自動車を用いた災害時の避難搬送に関する研究, 富井理史, 神戸大学大学院工学研究科建築学専攻(北後)

民泊が及ぼす地域コミュニティへの影響に関する研究, 門谷和哉, 神戸大学大学院工学研究

科建築学専攻(北後)

災害時にも機能する高齢者見守り体制を目指した地域包括ケアシステムの構築に関する研究, 孫暖, 神戸大学大学院工学研究科建築学専攻(北後)

Adaptation to Landslides in Chittagong Hill Tracts in Bangladesh, SADIA TASNIM, 神戸大学大学院国際協力研究科地域協力政策専攻(北後)

Analysis of Flood Disaster Situation and Management in Myanmar: A Case Study of Cyclone Komen 2015 in Magway Region, EI EI SU MON, 神戸大学大学院国際協力研究科地域協力政策専攻(北後)

長方形断面 CFT 柱の力学的性能に関する実験的研究, 市川元気, 神戸大学大学院工学研究科建築学専攻

角形CFT柱の履歴性状に関する解析的研究, 櫻井陽, 神戸大学大学院工学研究科建築学専攻

孔あき鋼板ジベルを用いたCFT柱継手に関する研究, 貞本尚亮, 神戸大学大学院工学研究科建築学専攻

リスク・コミュニケーション研究部門

深層学習を用いた唇画像から音声への変換, 伊藤大貴, 神戸大学大学院システム情報学研究科情報科学専攻

深層学習に基づく健常者モデルの適応による構音障害者音声合成, 北村毅, 神戸大学大学院システム情報学研究科情報科学専攻

音声明瞭度に関連した脳磁界反応の解析, 嵯峨直樹, 神戸大学大学院システム情報学研究科情報科学専攻

没入型VRを用いた歩行時における視覚機能の計測システム, 仲谷将志, 神戸大学大学院システム情報学研究科情報科学専攻

ユーザー発話意図理解に基づくインタビュアーエージェントの構築, 松好祐紀, 神戸大学大学院システム情報学研究科情報科学専攻

Building a Cooking Assistance Dialogue System Using Deep Learning, 張文康, 神戸大学大学院システム情報学研究科情報科学専攻

2018年2月19日Sinabung山噴火における噴煙内部の電場に関する研究, 塩川次郎, 神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻(大石・梶川)

降雨予測のための洋上GNSS活用方法に関する研究, 岸本雅弘, 神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻(大石・梶川)

3台のレーダーによる三次元変分法を用いた渦度推定に関する研究, 大川弘佑, 神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻(大石・梶川)

地域間にカスタマイズされた土砂災害危険度提供システムに関する研究, 佐和田光平, 神戸大

学大学院工学研究科市民工学専攻（大石・梶川）

平成27年関東東北豪雨のアンサンブル予測を用いた鬼怒川流域での洪水再現性の検討, 森本哲平, 工学研究科市民工学専攻（小林）

釧路湿原における洪水氾濫解析, 阪口詩乃, 工学研究科市民工学専攻（小林）

16.3 卒業研究

リスク・アセスメント研究部門

動的有限要素法を用いた遠心模型実験による盛土の地震時挙動の解析, 石山健人, 神戸大学工学部市民工学科（橘・竹山）

ベントナイト供試体の吸水膨潤・隙間充填メカニズムに関する解析的検討, 田中芳典, 神戸大学工学部市民工学科（竹山・橘）

ベントナイトを対象とした弾塑性構成モデルの再現性の検証, 太田有祐, 神戸大学工学部市民工学科（飯塚・橘）

土／水連成問題の分離型解法における収束性に係るパラメータの推定, 吉村侑起, 神戸大学工学部市民工学科（橘・竹山）

スメクタイトのイライト化を例とした材料特性変化の弾塑性構成モデル化への考察, 酒井貴寛, 神戸大学工学部市民工学科（飯塚・橘）

SPH 法を用いた降雨の特徴と斜面崩壊発生との関係性の検討, 涌本真由, 神戸大学工学部市民工学科（飯塚・竹山）

地下水浸潤過程における拘束条件がベントナイト緩衝材の変状に及ぼす影響, 黒田奈津美, 神戸大学工学部市民工学科（橘・飯塚）

弾塑性構成モデルの精緻化によるベントナイトの膨潤特性の表現, 松尾颯大, 神戸大学工学部市民工学科（橘・飯塚）

東京都の海拔ゼロメートル地帯における液状化解析, 大山和貴, 神戸大学工学部市民工学科（竹山・飯塚）

不飽和締固め土の構成モデルパラメータの同定と妥当性の検討, 林啓太, 神戸大学工学部市民工学科（竹山・橘）

2011 年東北地方太平洋沖地震前 4 年間の東北地方の地殻変動, 阿部 大毅, 神戸大学理学部惑星学科（吉岡）

（廣瀬）

GNSS データによる豊後水道～日向灘におけるプレート間すべり履歴(1996 年-1998 年), 手柴沙和子, 神戸大学理学部惑星学科

房総半島沖スロースリップイベントに伴う群発地震活動の b 値について, 野田雄貴, 神戸大学理学部惑星学科

リスク・マネジメント研究部門

サイト増幅特性を考慮した道路橋の設計地震動, 木下雄太, 神戸大学工学部市民工学科 (長尾)

鋼管拘束下の PBL 引抜き耐力に関する実験的研究, 川端梨紗子, 神戸大学工学部建築学科 (藤永)

梁貫通形式角形 CFT 柱梁接合部に関する研究, 竹本匠吾, 神戸大学工学部建築学科 (藤永)

角形 CFT 柱の動的載荷実験, 橋本淳矢, 神戸大学工学部建築学科 (藤永)

ひらいて、むすんでー地域を結ぶワーキングベースー, 吉田有希, 神戸大学工学部建築学科 (北後・ピニエイロ)

山郭に集う, 吉野愛美, 神戸大学工学部建築学科 (北後・ピニエイロ)

Space Cーまちを組むコミュニティ空間ー, K I M E U L I M, 神戸大学工学部建築学科 (北後・ピニエイロ)

街と繋がるオープンスクール, 大村太秀, 神戸大学工学部建築学科 (北後・ピニエイロ)

リスク・コミュニケーション研究部門

マルチタスク学習による雑談対話システムへの外部知識付与に関する研究, 麻生大聖, 神戸大学工学部情報知能工学科

系列内変動を考慮した Recurrent Neural Networks による歌声合成, 片平健太, 神戸大学工学部情報知能工学科

電子顕微鏡画像からの神経細胞セグメンテーション, 小山詠未, 神戸大学工学部情報知能工学科

ゼロショット学習を用いた一般物体セグメンテーション, 谷田啓一, 神戸大学工学部情報知能工学科

ゾンデから得られる積乱雲下における降水粒子の混合比と鉛直風速の関係に関する研究, 林直希, 神戸大学工学部市民工学科 (大石・梶川)

岐阜県における過去数十年の時間別降雨特性と平成 30 年 7 月豪雨に関する研究, 篠木郁秀, 神戸大学工学部市民工学科 (大石・梶川)

2018 年 2 月のシナブン火山噴火を事例とした SRHI スキャンによる火砕流の解析, 吉木光軌, 神戸大学工学部市民工学科 (大石・梶川)

西日本豪雨を対象とした岡山県倉敷市真備町における避難行動の在り方に関する基礎的検討, 坂本理沙 (小林)

d4PDF を用いた佐用川流域の流出計算に関する基礎的検討, 川邊結子 (小林)

妙法寺川流域における雨水幹線を考慮した降雨流出計算手法の検討, 田村篤志 (小林)

付録 センター活動の報道記録

コラム Dr. イワケンの「感染症のリアル」

「おたふくかぜ」…治るからと思ってあなどってはいけない

(YOMIURI ONLINE yomiDr. ヨミドクター 4/2)

2月上旬、益城町最大の仮設住宅「テクノ仮設団地」で暮らす被災者ら4人が神戸市長田区を訪れた。企画した神戸大地域連携推進室学術研究員の山地久美子さん（災害社会学）は「兵庫の被災経験が熊本の教訓になり、熊本の経験が兵庫の経験になる。伝え合い、学び合いが未来の災害への備えとなるはず」と話す。

(神戸 4/8 朝刊)

コラム Dr. イワケンの「感染症のリアル」

男女とも危険にさらされるHPV

(YOMIURI ONLINE yomiDr. ヨミドクター 5/7)

神戸大学コラム 安心の素 37

避難とシミュレーション 神戸大学経済経営研究所特命講師 内種 岳詞

(神戸 5/21 朝刊)

コラム Dr. イワケンの「感染症のリアル」

はしか対策…日本で流行が止まらない理由

(YOMIURI ONLINE yomiDr. ヨミドクター 6/4)

未来の社会のあり方について語り合うイベント「未来世紀都市フェス」開催に向けて、神戸大学の教員らでつくるユニット、道場「未来社会創造研究会」がインターネットで寄付を募る「クラウドファンディング」を始めた。事務局を担当する神戸大学大学院の祇園景子特命助教は「さまざまな人が相互作用して、新たなものを生み出す場にしたい」と話す。

(神戸 6/13 朝刊)

サンテレビニュース 准教授 廣瀬 仁 先生 出演

大阪北部地震 神戸大学廣瀬氏「阪神淡路と似ている」

(サンテレビ 6/19)

コラム Dr. イワケンの「感染症のリアル」

今、また、エボラの逆襲

(YOMIURI ONLINE yomiDr. ヨミドクター 7/2)

読売テレビ 情報ライブミヤネ屋 教授 大石 哲 先生 出演

死者多数数十年に1度の異常な大雨 ▽特別警報が各地で発表 ▽河川決壊・土砂崩れ・浸水
▽被害の爪痕を総力取材&中継

(読売テレビ 7/9)

読売テレビ 情報ライブミヤネ屋 教授 大石 哲 先生 出演

豪雨災害「被災地にいま必要なもの」現地から生中継 ▽被害はなぜ拡大した？専門家が解説
(読売テレビ 7/11)

西日本豪雨で甚大な被害が出た岡山県に災害派遣医療チーム(DMAT)として派遣され、11日夜に帰神した神戸大医学部附属病院チームが12日、同病院で現地の避難所の状況や今後の課題

について報告した。同病院は要請があれば救護班を派遣できるよう準備を進めるといい、小谷穰治救急部長は「DMAT 隊全体の報告を集約し、現地のニーズに合う救護支援活動に取り組みたい」と話した。

(神戸 7/13 朝刊)

読売テレビ 情報ライブミヤネ屋 教授 大石 哲 先生 出演

▽平成最悪西日本豪雨から 1 週間…救助活動をはばむ猛暑とゲリラ豪雨…生活再建へ被災地にいま必要な事とは現地から生中継

(読売テレビ 7/13)

朝日放送 教えて！NEWS ライブ正義のミカタ 教授 大石 哲 先生 出演

豪雨災害のミカタ

(朝日放送 7/14)

神戸大学コラム 安心の素 38

木造住宅も「健康診断」を 神戸大学工学研究科准教授 向井 洋一

(神戸 7/16 朝刊)

平成最悪の被害をもたらした西日本豪雨で、各地に雨が降り始める前日の今月 4 日昼ごろ、兵庫県をはじめとする西日本一帯で大気中の水蒸気量が異常に高い値を示していたことが、神戸大学都市安全研究センターの大石哲教授（水文気象学）の分析で分かった。

(神戸新聞NEXT 7/18)

サンテレビ 情報スタジオ 4 時！キャッチ 飯塚 敦教授、大石 哲教授ご出演

神戸大学未来世紀都市学の活動紹介。

RIKEN R-CCS と連携した都市丸ごとの災害シミュレーション技術の社会実装など。

(サンテレビ 7/31)

コラム Dr. イワケンの「感染症のリアル」

夏だ！ご飯だ！食中毒だ？！

(YOMIURI ONLINE yomiDr. ヨミドクター 8/6)

・静岡県は 8 日、リニア中央新幹線の南アルプストンネル工事が大井川などの自然環境に及ぼす影響を検証する有識者会議の初会合を県庁で開いた。神戸大の大石哲教授（水文気象学）は「工事は予測できないことが多数出てくると思う。事業者はデータを明らかにし、しかるべき対応をしてほしい」と話した。

(日経 8/8 夕刊)

リニア工事の環境に及ぼす影響を検証する静岡県有識者会議において、神戸大の大石教授は「工事は予測できないことが多数出てくると思う。事業者はデータを明らかにし、しかるべき対応をしてほしい」と話した。

(産経新聞 8/9 朝刊 静岡版)

被災地では避難所によって取り組みに差があるのが実情。神戸大地域連携推進室の山地久美子学術研究員（災害社会学）は、「平時から自主防災組織に女性が参加し、災害時にも運営側に入り関わっていくことが大切だ」と強調する。

(西日本新聞 8/9 夕刊)

～安全・安心な社会を目指して～豪雨災害軽減のための先端技術 神戸大学都市安全研究センター教授 大石哲 氏に聞く

(読売 8/27 朝刊)

コラム Dr. イワケンの「感染症のリアル」

風疹の流行、予防接種の変わらぬ「穴」・・・先天性の奇形を起こさせないためには
(YOMIURI ONLINE yomiDr. ヨミドクター 9/3)

相次ぐ地震、豪雨災害の現状や防災について考えるシンポジウム「防災市民サミット 2018」が 15 日、神戸市勤労会館で開かれた。神戸大の大石哲教授は真備町を襲った水害のメカニズムを解説。川底が周囲の土地より高い天井川が氾濫した場合、水が津波のように付近の家を襲うとした上で、県内にも天井川が多いことに触れ、注意を呼びかけた。

(産経 9/16 朝刊)

神戸大学コラム 安心の素 39

地震に強い神戸の水道 神戸大学大学院工学研究科准教授 鯨田 泰子

(神戸 9/17 朝刊)

防災への意識を高めようと、講演会「防災市民サミット 2018」が神戸市中央区の市勤労会館で開かれ、市民ら約 40 人が今年発生した大きな災害を振り返り教訓を学んだ。大石哲・神戸大教授は西日本豪雨での河川決壊のメカニズムなどについて解説した。

(読売 9/23 朝刊)

熊本地震で熊本県内の 11 福祉避難所を調査した神戸大学都市安全研究センターの北後明彦教授は「要支援者に対応する人災をいかに外部から確保するかが課題。施設名を事前に公表した上で備えてほしい」と指摘する。

(北海道新聞 9/29 朝刊)

コラム Dr. イワケンの「感染症のリアル」

過去の病気？いえいえ、そんなことはないコレラの話

(YOMIURI ONLINE yomiDr. ヨミドクター 10/1)

連載「感染症屋」の医師が語るアルコールリスク ワインは“毒”か、それとも“薬”か!?
「感染症屋」の医師が語る川島なお美のがん死とワインの本当の関係
教授 岩田健太郎先生

(AERAdot. 10/2)

台風 21 号による関西空港（大阪府泉佐野市）の浸水被害から 1 カ月。関空の 2 期島工事の地盤調査に関する委員会にもかかわった神戸大の飯塚敦教授（地盤工学）にインタビューした。空港の早期再開について、飯塚教授は際どかったのではないかと疑問を呈し、一連の課題、今後の教訓について指摘した。

(共同通信 10/6)

連載「感染症屋」の医師が語るアルコールリスク ワインは“毒”か、それとも“薬”か!?
「感染症屋」の医師が語る さくらももこさんの乳がんは喫煙が原因!?
教授 岩田健太郎先生

(AERAdot. 10/9)

神戸大学都市安全研究センターの大石哲教授は、8 月の末、非常に強い台風 21 号が 9 月 4 日に関西へ襲来することを確信した。上陸が早まるリスクを考え、9 月 3 日～4 日の打ち合わせなどの予定をキャンセルして、その間は、外出せず、論文執筆などにあてることを決めた。気象予報士でもある大石さんは、「早めの心の準備をすることが重要」と話す。

(朝日 10/13)

連載「感染症屋」の医師が語るアルコールリスク ワインは“毒”か、それとも“薬”か!?
ワイン・ラバーな感染症屋が「悪魔の味方」でワインを検証する理由
教授 岩田健太郎先生

(AERAdot. 10/16)

次世代エネルギーとして注目される水素を海水から取り出す。そんな「夢」につながる基礎研究の実現を、神戸大学先端融合研究環の青木誠助教は学術系クラウドファンディング「アカデミスト」を通じて目指す。神戸大は11月に開く「未来世紀都市フェス」の資金も別のクラウドファンディングで募集し、目標を上回る資金を得た。

(神戸 10/21 朝刊)

連載「感染症屋」の医師が語るアルコールリスク ワインは“毒”か、それとも“薬”か!?
醸造酒、蒸留酒、混成酒… わかりづらいお酒の定義を「感染症屋」が考えてみた
教授 岩田健太郎先生

(AERAdot. 10/23)

連載「感染症屋」の医師が語るアルコールリスク ワインは“毒”か、それとも“薬”か!?
ワインラバーな感染症屋が考える「アルコール発酵」の偉人 微生物学が関係する理由
教授 岩田健太郎先生

(AERAdot. 10/30)

東京・渋谷のハロウィーンから一夜明けた1日、仮装した若者らが早朝から路上のゴミを拾い集めるなど、「祭り」の後始末が始まった。貝辻正利・神戸大都市安全研究センター特別研究員は「渋谷ハロウィーンを皆が楽しみながら、混乱も避ける即効的な解決策を講じるのは難しい。自治体や地元関係者らがモラルを打ち出してねばり強く協力を呼びかけ、理性の働かない人が参加しづらいイベントになるよう中長期的に育てていくしかない」と話す。

(読売 11/1 夕刊)

コラム Dr. イワケンの「感染症のリアル」
インフルエンザ予防は誤解だらけ 最大最強の方法はもちろん……

(YOMIURI ONLINE yomiDr. ヨミドクター 11/5)

岩田健太郎教授、大路剛准教授たちが参与されているプロジェクト受賞について

■厚生労働大臣賞

活動名称：医療従事者の多職種協働をめざしたNPO法人による13年間のAMR対策の普及啓発活動とその成果

応募者：特定非営利活動法人 EBIC 研究会

■「薬剤耐性へらそう！」応援大使賞

○篠田麻里子さん

活動名称：2010年から実践する多職種連携を基盤とした抗菌薬適正使用支援の推進と教育活動

応募者：神戸大学医学部附属病院 抗菌薬適正使用支援（Big Gun）プロジェクトチーム
(11/5 日本科学未来館に於いて表彰式 主催内閣官房)

連載「感染症屋」の医師が語るアルコールリスク ワインは“毒”か、それとも“薬”か!?
「もやしもん」で人気の菌名はビールが語源！ 感染症屋がトンデモ科学を分析
教授 岩田健太郎先生

(AERAdot. 11/6)

連載「感染症屋」の医師が語るアルコールリスク ワインは“毒”か、それとも“薬”か!?
「おかしな主張だけど当時は正しかった」は科学の常 感染症屋が考える“学説”とは?
教授 岩田健太郎先生

(AERAdot. 11/13)

東日本大震災で被災した東北地方では、語り部の利用数が激減している。「利用者が聞きたい話を語り部が十分に語れていない」。神戸大学地域連携推進室学術研究員の山地久美子さん(災害社会学)は語り部側の課題をそう指摘する。

(神戸 11/15 朝刊)

神戸大学コラム 安心の素 40

食中毒原因さまざま 神戸大学都市安全研究センター准教授 大路 剛

(神戸 11/19 朝刊)

連載「感染症屋」の医師が語るアルコールリスク ワインは“毒”か、それとも“薬”か!?
黒木瞳「失樂園」で有名なシャトー・マルゴーは1級 ワイン「格付け」の意外なきっかけ
教授 岩田健太郎先生

(AERAdot. 11/20)

リニア工事有識者会議における大石哲 委員の発言

本体トンネルを掘削する前に掘る「先進坑」を進める際、湧水量や地質を明らかにして議論を尽くすことが重要。水を戻すポンプアップの技法には、超長期的な観点から継続的に懸念がある。永続的に大井川流域の水を戻す方法を検討してほしい。

(中日新聞静岡版 11/22)

連載「感染症屋」の医師が語るアルコールリスク ワインは“毒”か、それとも“薬”か!?
戦時下で多くの命を奪った「脚気」が感染症と疑われた理由
教授 岩田健太郎先生

(AERAdot. 11/27)

コラム Dr. イワケンの「感染症のリアル」

紛争と感染症の恐ろしい関係 ロヒンギャ難民にジフテリア流行

(YOMIURI ONLINE yomiDr. ヨミドクター 12/3)

連載「感染症屋」の医師が語るアルコールリスク ワインは“毒”か、それとも“薬”か!?
「君の名は。」にも出てきた口嚙み酒の風習 酒と宗教儀式の不思議な関係性とは?
教授 岩田健太郎先生

(AERAdot. 12/4)

コラム Dr. イワケンの「感染症のリアル」

紛争と感染症の恐ろしい関係 ロヒンギャ難民にジフテリア流行

(YOMIURI ONLINE yomiDr. ヨミドクター 12/3)

被災地の「語り部」シンポジウム (神戸大学都市安全研究センター後援シンポジウム)

(NHK全国ニュース 12/8)

教訓を次世代に語り継ごう 大地震の被災者が訴え 熊本

(神戸大学都市安全研究センター後援シンポジウム)

(NHK全国ニュース 12/8)

連載「感染症屋」の医師が語るアルコールリスク ワインは“毒”か、それとも“薬”か!?
今は第7次ワインブーム！ 感染症屋が語る「経済成長」と「ワイン」の関係性とは？

教授 岩田健太郎先生

(AERAdot. 12/11)

第4回被災地語り部国際シンポジウムの分科会「被災地語り部から学ぶ」において、コメンテーターの北後明彦神戸大教授は、「普段から防災意識を高められるよう、さまざまな局面で被災体験を伝えていくネットワークを広げてほしい」とまとめた。

(熊本日日新聞 朝刊 12/5)

連載「感染症屋」の医師が語るアルコールリスク ワインは“毒”か、それとも“薬”か!?
「007」ジェームズ・ボンド流「偽ソムリエ」の見分け方？ ボルドーワインの歴史

教授 岩田健太郎先生

(AERAdot. 12/18)

熊本市で開催された全国被災地語り部シンポジウムにおいてコーディネーターを務めた神戸大学地域連携推進室の山地久美子学術研究員は「行政は主にハードの防災・減災を担うのに対し、語り部が担うのは、ソフト面。次世代の育成方法も含め、より多角的で効果的な仕組みづくりを、語り部同士の交流を拡大する中で考えていこう」と呼び掛け総括とした。

(公明新聞 12/8)

連載「感染症屋」の医師が語るアルコールリスク ワインは“毒”か、それとも“薬”か!?
ジェームズ・ボンドは酒浸りで手が震えていた！？ 感染症屋が語る映画「007」と酒

教授 岩田健太郎先生

(AERAdot. 12/25)

連載「感染症屋」の医師が語るアルコールリスク ワインは“毒”か、それとも“薬”か!?
ヘミングウェイもそうだった！？ 「お酒」と「うつ病」発症の因果関係

教授 岩田健太郎先生

(AERAdot. 1/1)

コラム Dr. イワケンの「感染症のリアル」

リンゴ可愛や、可愛やリンゴ でも可愛くはないリンゴ病

(YOMIURI ONLINE yomiDr. ヨミドクター 1/7)

連載「感染症屋」の医師が語るアルコールリスク ワインは“毒”か、それとも“薬”か!?
『神の雫』でも描かれた「メドック・マラソン」は、なぜワインを飲みながら走るのか？

教授 岩田健太郎先生

(AERAdot. 1/8)

連載「感染症屋」の医師が語るアルコールリスク ワインは“毒”か、それとも“薬”か!?
感染症屋が語るワイン造り 微生物が「恩恵」にも「邪魔」にもなる理由とは？

教授 岩田健太郎先生

(AERAdot. 1/15)

コラム Dr. イワケンの「感染症のリアル」

リンゴ可愛や、可愛やリンゴ でも可愛くはないリンゴ病

連載「感染症屋」の医師が語るアルコールリスク ワインは“毒”か、それとも“薬”か!?
ワイン造りでの「有機」「無農薬」は健康によいか? 感染症屋の見解は…
教授 岩田健太郎先生

(AERAdot. 1/22)

予防薬投与、費用負担が重荷 淡路・インフル集団感染

神戸大病院感染症内科の岩田健太郎診療科長(47)は「治療と予防を分けるのは時代遅れ。医学的な効果はあるとされている。保険適用すべき」と指摘。「感染症対策の専門家がいる医療機関と施設のネットワーク構築が必要」と提言する。

(神戸 1/25)

連載「感染症屋」の医師が語るアルコールリスク ワインは“毒”か、それとも“薬”か!?
「健康のため」に有機ワインやビオディナミワインを飲むのは間違っている!?
教授 岩田健太郎先生

(AERAdot. 1/29)

コラム Dr. イワケンの「感染症のリアル」

やっぱり怖い高齢者の肺炎 予防は何といってもワクチン

(YOMIURI ONLINE yomiDr. ヨミドクター 2/4)

連載「感染症屋」の医師が語るアルコールリスク ワインは“毒”か、それとも“薬”か!?
マリー・アントワネットのバストをかたどった!? シャンパングラスの定番たる所以
教授 岩田健太郎先生

(AERAdot. 2/5)

連載「感染症屋」の医師が語るアルコールリスク ワインは“毒”か、それとも“薬”か!?
糖分を加えるのは甘くするため!? 意外と違う赤ワインと白ワインの製造工程
教授 岩田健太郎先生

(AERAdot. 2/12)

連載「感染症屋」の医師が語るアルコールリスク ワインは“毒”か、それとも“薬”か!?
ワインに入っている酸化防止のための亜硫酸(二酸化硫黄)は健康に害を及ぼすか?
教授 岩田健太郎先生

(AERAdot. 2/19)

連載「感染症屋」の医師が語るアルコールリスク ワインは“毒”か、それとも“薬”か!?
化学調味料が「体に悪い」は間違い! 医師が指摘する“添加物リスク”の受け止め方
教授 岩田健太郎先生

(AERAdot. 2/26)

コラム Dr. イワケンの「感染症のリアル」

命は奪わないけれどつらい、赤いブツブツ 帯状疱疹は予防の時代

(YOMIURI ONLINE yomiDr. ヨミドクター 3/4)

連載「感染症屋」の医師が語るアルコールリスク ワインは“毒”か、それとも“薬”か!?
テイastingに困らない!? 「香り」と「味覚」でワインの楽しみ方が倍増する方法
教授 岩田健太郎先生

(AERAdot. 3/5)

女将は神戸大の学術研究員、山地久美子から紹介され、2015年5月、阪神大震災を起こし、地面のずれとして現れた「野島断層」を保存する北淡震災記念公園（兵庫県淡路市）に宮本肇総支配人（当時）を訪ね、東西の交流が始まった。

(時事通信 jiji.com 3/9)

連載「感染症屋」の医師が語るアルコールリスク ワインは“毒”か、それとも“薬”か!?
ワイン好きでも知らない? 「スクリュューキャップのワインは安物」が間違いの理由
教授 岩田健太郎先生

(AERAdot. 3/12)

2015年の夏、東日本の復興支援に携わる神戸大学学術研究員の山地久美子さんと、宮城県南三陸町を訪ね、現地の語り部も思いは同じだと知った。「語り部が学び合える場を」とシンポジウム開催を呼び掛けた山地さんに賛同し、語り部ボランティアが運営を担った。

(神戸 3/15 朝刊)

神戸大学コラム 安心の素 41

リアルタイムで災害情報 神戸大学都市安全研究センター特命助教 小川 まり子

(神戸 3/18 朝刊)

連載「感染症屋」の医師が語るアルコールリスク ワインは“毒”か、それとも“薬”か!?
ワインの「酸化」は酸っぱくなるわけではない!? “微生物屋”が語る酸味
教授 岩田健太郎先生

(AERAdot. 3/19)

連載「感染症屋」の医師が語るアルコールリスク ワインは“毒”か、それとも“薬”か!?
コルクが臭すぎる! ソムリエに「ワインを取り換えてくれるかな」と言ってもOK?
教授 岩田健太郎先生

(AERAdot. 3/26)